



2014

フジテレビ CSR 報告書

2013 年 4 月 - 2014 年 3 月

Fuji Television CSR Report



私たちに できることを もっと、もっと。

編集方針 Corporate Responsibility

本報告書はフジテレビが2013年4月から2014年3月までに行ったCSR活動をまとめたものです。この1年間、フジテレビがどのようなCSR活動に力を入れてきたかを、一般の方々にも読みやすく、理解していただきやすいよう「トピックス（特集）」「災害復興支援」「社会貢献」「環境」と4つのカテゴリーに分けました。

また今年度から「人材育成と職場環境」のページを設け社員がいきいきと働けるための取り組み・制度等もご紹介しています。

なお、WEBサイトでは、より詳細な活動ごとのレポートや、過去の活動なども開示しています。

<http://www.fujitv.co.jp/csr/>

ご意見、ご感想などございましたら是非お寄せください。

フジテレビ放送文化推進局 CSR 推進室

✉ csr.ss@fujitv.co.jp



「臨海副都心チューリップフェスティバル」2014 春



「臨海副都心チューリップフェスティバル」に向け、近隣企業 150 人で
3 万 3 千株のチューリップの球根を植えました。(2014 年 1 月 29 日)

INDEX

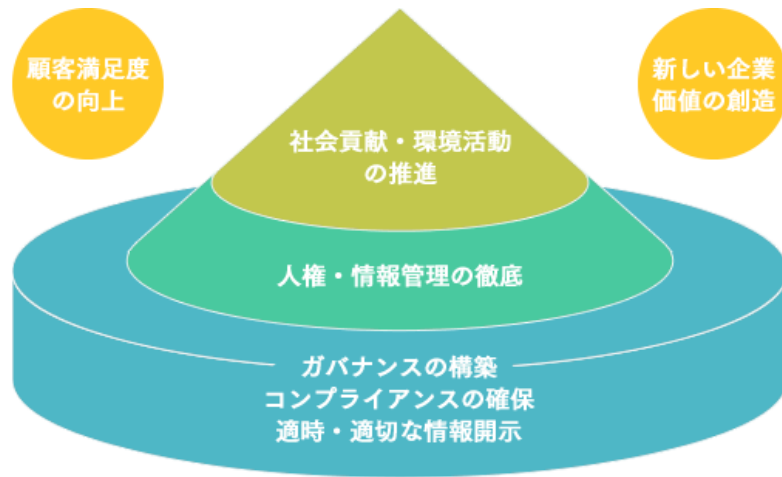
CSR 活動方針	3
CSR 推進体制	4
2013 年度活動 TOPICS	5
みちのく合衆国 SL ガラクシー めざましテレビ Tatton プロジェクト こども笑顔プロジェクト サザエさん 45 周年 防災 FNN いのちを守る 災害に強い放送システム 全社的な防災活動	
災害復興支援活動	15
ずっとおうえん。プロジェクト 震災報道基本姿勢 震災関連番組 映画をつづじた復興支援 その他	
社会貢献活動	22
FNS チャリティキャンペーン オリジナル出前授業 メディアの特性を生かした取り組み メディアリテラシー向上への取り組み 次世代育成への取り組み 番組・映画制作をつづじた社会貢献 イベントによる社会貢献 字幕・解説放送等 最先端の放送技術による取り組み 国際交流 その他	
環境活動	37
地球温暖化防止のための取り組み 全社的な環境への取り組み ペーパーレスへの取り組み リサイクル・省資源への取り組み 映画事業をつづじた取り組み 清掃・美化活動 その他	
フジサンケイグループ各社とともにいった取り組み	43
フジ・メディア・ホールディングス各社とともに いった取り組み	45
コーポレートガバナンス・内部統制	46
人材育成と職場環境	49

CSR活動方針

フジテレビのCSRへの取り組み

企業が社会の一員である以上、その社会に対して大きな果たすべき役割を負っています。フジテレビは、その果たすべき責任を認識し、行動することがCSR（=Corporate Social Responsibility）の役割と考えています。

企業の社会的責任は、コンプライアンスを始め、社会貢献活動、環境活動、ステークホルダー（従業員、株主、顧客・視聴者など企業と関わる全ての利害関係者の総称）との関係、人権、情報管理、地域社会への参加、人材育成・職場環境なども含まれ、領域は広範にわたります。



フジテレビでは、CSR活動を通じてメディア企業としての社会的責任を果たすべく、2006（平成18）年6月にCSR推進室を新設。更に社長を委員長とした社内横断組織「CSR推進会議」を立ち上げ、各部局から選出されたプロジェクトチームメンバーが中心となってCSR活動を推進・実行しています。またその内容を適時ホームページで公表しています。

CSRの基盤をなす「ガバナンスの構築」「コンプライアンスの確保」に関しては、2006年5月、会社法の施行に対応し「業務の適正を確保する体制（内部統制システム）の整備」を行いました。

また、国民共有の財産である電波を預かる放送事業者としての使命を強く認識し、一般より高い法令順守の意識、使命感、倫理観が求められていること等を自覚するなど誠実な業務遂行を求める「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」を設けています。

さらに、メディアを通じて人々に感動を与え、情報文化向上に寄与するという企業理念のもと、絶えず発信する豊かなコンテンツ（情報）資産を各種の脅威から守り、かつ、業務や番組制作において取得したすべての情報は重要かつ貴重な資産であるという認識に立って、「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」を定め、全社的に情報セキュリティの考え方（「情報セキュリティガイドライン」）を周知徹底しています。

また、開局50周年を迎えたことを機に、2010年1月1日には、従来の社是や「行動指針」に変わる「行動宣言」を新たに制定しました。高い公共性への使命感と放送倫理に対する社会的な責任を強く認識し、次の時代に向けてフジテレビが目指さなければならない「行動目標」を内外に宣言するものであり、フジテレビ及び社員による企業活動の基本理念となっています。

フジテレビ 行動宣言

フジテレビは、放送局として個性と挑戦心に溢れ創造性に富んだメディア活動を展開してきました。

フジテレビは、これからも日々良質な番組やコンテンツの提供に努力し、明るく、元気に半歩先を行くことで、メディアのさらなる可能性を追求していきます。

フジテレビは、高い公共性への使命感と放送倫理に対する社会的な責任を強く認識し、社会からの共感や信頼を得ることが重要と考えています。

フジテレビは、「世のため人のため」、社会に、地球に、そしてあなたにとって何が「大切」かを常に考え、愛され、信頼される放送局として行動します。

行動理念

**たいせつなこと。
たいせつにします。
フジテレビ**

行動目標

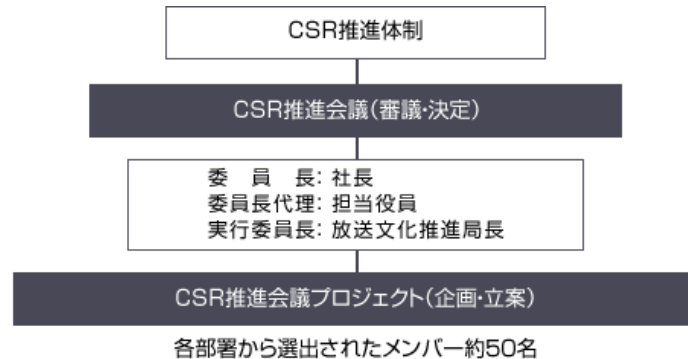
フジテレビは、
社会にとって 何が大切かを考え、行動します。
地球にとって 何が大切かを考え、行動します。
あなたにとって 何が大切かを考え、行動します。

2010年1月1日

私たちのCSR活動

CSR推進体制

社長を委員長とする「CSR推進会議」の体制は以下のようになっています。社長・役員・局長が出席する「CSR推進会議」を年に一度（5月末）開催し、年度の活動報告ならびに次年度の活動計画を審議します。



CSR推進会議プロジェクトチームメンバー CSR推進プロジェクト

フジテレビのCSR活動の軸となっているのは、各局から選抜されたCSR推進会議プロジェクトメンバーです。月に一度、CSR推進会議実行委員長を交えて活動報告や情報交換を行う会議を開催しているほか、毎週「社会貢献」「環境・防災」をテーマに分科会を開き、メンバーからの企画を検討。フジテレビらしい“ボトムアップ”型のCSR活動を実施しています。



エコアナ

2007年にはフジテレビのCSR活動を様々な場面で支えるアナウンサー集団『エコアナ』を結成しました。イベントの進行や朗読などの社会貢献活動や環境問題の取材・勉強会への出席、ホームページへの寄稿など、『エコアナ』活動を積極的に展開中です。



2014年3月現在 33人

4つの柱

CSR推進会議プロジェクトチームメンバーによる活動は大きくわけて4つのカテゴリーに分類されます。これらすべてをホームページにて公開しています。

▶ フジテレビCSRホームページ <http://www.fujitv.co.jp/csr/>



社会貢献

フジテレビの本業を生かしたイベントや上映会、朗読会のほか、チャリティ活動などを展開しています。



環境活動

清掃活動、緑化活動、省エネ・省資源への取り組み、また防災などにも力を入れています。



災害支援

東日本大震災以降、変化する現地のニーズに合わせた支援活動を継続的に行っています。その他の災害に見舞われた地域への復興支援活動も実施しています。



番組

報道や情報番組などを通じたフジテレビならではのCSR活動を展開しています。

TOPICSページでは2013年度に行った
主な活動についてご紹介します。

01 『みちのく合衆国2014』 ～いつでもNIPPON応援団！ in 岩手～ を開催

災害復興支援



『みちのく合衆国』は、東日本大震災で被害に遭われた方々に
お笑いステージや、有名アーティストのライブで楽しんでもらおうと、
2012年から行っている全社的な被災地復興支援イベントです。

これは、フジテレビが毎年夏に社屋周辺で開催している『お台場合衆国』の収益で実施しており、宮城県、福島県に続いて
今回の岩手県が3回目。毎回、被災地の方々を無料でご招待しています。

2013年度は3月14・15日の2日間、岩手県大船渡市にある大船渡市民文化会館・市立図書館 リアスホールで開催
されました。1日目は「THE MANZAI」、2日目は「AKB48」スペシャルライブを行い、被災地の方々合計3,500人を
ご招待しました。



キャラクターグリーティングでは
たくさんの方に集まって頂きました！

＜参加キャラクター＞

大船渡PRキャラクターのおおふなとん・
ガチャピン&ムック・ラフくん・ミット君
(岩手めんこいテレビ)・ジュニくん
(仙台放送)・ふくたん(福島テレビ)

会場入り口付近にCSRの被災地復興支援『ずっとおうえん。プロジェクト』のブース
を設け、来場したみなさんに、「きぼう、きずな、げんき、すき」のメッセージを頂き
ました。お子さんをはじめ一緒にいらして下さったご家族の方々にもご参加頂き、み
なさんのメッセージで「みんなのき」ボードが満開になりました。



3年間で宮城・福島・岩手の被災3県をめぐるしました！

みちのく合衆国2012 in 宮城

3月17・18日

利府町・セキスイハイムスーパーアリーナ
「THE MANZAI」「ピカルの定理」
「めざましライブ」に

計12,000人をご招待



キャラクターグリーティング



メインのライブ会場の様子

東日本大震災から1年がたった2012年3月…

宮城県利府町のセキスイハイムスーパーアリーナで17・18日の2日間にわたって『みちのく合衆国2012』が行われました。初日の『バラエティDAY』は、「THE MANZAI」の生放送（仙台放送・岩手めんこいテレビ・福島テレビでオンエア）や、人気バラエティ番組「ピカルの定理」の公開収録などが行われ、2日目の『めざましライブDAY』には、郷ひろみ、AI、MONKEY MAJIK、西野カナ、ナオト・インティライミ、ルンヒャンが出演、熱気あふれるステージで観客を魅了しました。



みちのく合衆国2013 in 福島

3月30日

福島市・あすま総合体育館にて開催
「THE MANZAI」「めざましライブ」に

計7,000人をご招待



会場内には福島県の特産物が並ぶブースも



メインのライブ会場の様子

震災から2年がすぎた2013年3月30日には、『みちのく合衆国2013』を福島で開催。

会場となったのは福島市のあづま総合体育館。

「THE MANZAI」と「めざましライブ」の各ステージに、地元の方々3,500人を無料でご招待しました。



みちのく合衆国2014 in 岩手

3月14・15日

大船渡市・リアスホールにて開催
「THE MANZAI」「AKB48」SPライブに

計3,500人をご招待



みなさんからメッセージをいただきました



キャラクターグリーティング



東日本大震災から3年となる2014年3月7日(金)～8日(土)

JR東日本の協力により、東北地方の復興への思いを乗せた特別列車『みちのくSLギャラクシー』を走らせました。(このプロジェクトは3月14日(金)、15日(土)の2日間、岩手県で実施されたフジテレビの東北支援イベント『みちのく合衆国～いつでもNIPPON応援団!～ in 岩手』の一環で、プレイベントでもあります。)

特別列車『みちのくSLギャラクシー』は、被災3県(岩手・宮城・福島)にゆかりのある人々、約60人を乗せて東北を縦断。途中、復興支援の思いを持った多くのアーティストたちの応援ライブ・パフォーマンスを車内や駅構内で実施しながら、岩手・釜石駅を出発し1泊2日で、東京・上野駅にゴールするという、かつてないビッグプロジェクト。全行程600kmにわたり、沿線の地域住民や特別列車を一目見ようという人々の温かい声や笑顔で包まれました。

(SL走行区間: 岩手県・釜石駅～花巻駅、東京都・尾久駅～上野駅)



【参加アーティスト】

加山雄三
ももいろクローバーZ
一青窈 住岡梨奈 Chay
岩佐美咲 (AKB48)
徳永ゆうき



このプロジェクトの様子は、朝の情報番組「めざましテレビ」を中心に制作、放送されました。

3月9日(日)に特別番組「みちのくSLギャラクシー」を放送。

特別列車の乗客たちの復興にかける思いや3年間の日々にスポットを当て、岩手・宮城・福島でも同時放送しました。

3月10(月)～15日(土)の

「めざましテレビ」「めざましどようび」では、

「みちのくSLギャラクシーSTORIES」

として、特別列車の乗客たちの物語を特集。

これに対し、視聴者からは「元気をもらった」「感動した」「震災の事を忘れないようにしたい」という声をいただきました。



復興支援イベントとテレビ番組制作を融合させたこのような取り組みは、これまでの震災報道の在り方を一変させる試みとなりました。



Tatton

Tanbo × Cotton

「めざましテレビ」Tattonプロジェクト

災害復興支援



トピックス

災害復興支援活動

社会貢献活動

環境活動

グループとの取り組み

コーポレートガバナンス

人材育成と職場環境

『Tatton（タットン）プロジェクト』は、朝の情報番組「めざましテレビ」が、東日本大震災後の2011年5月から継続して行っている被災地支援企画です。（Tattonとは【田んぼ】と【綿＝コットン】を掛け合わせた言葉）

東日本大震災では、宮城県・福島県・岩手県のあわせて約19,302ヘクタールが海水に浸かり稲作が不可能となってしまいました。そこで、この『Tattonプロジェクト』では、稲作が不可能となった農家に、除塩効果があるという綿花を植えて田んぼを再生させようということで、2011年5月にプロジェクトを始動しました。

2013 年度

福島県のJA新ふくしまファーム、宮城県の丸森町など、津波被害がなかった地区にも圃場を拡大し、合わせて栽培面積が2ヘクタール（200アール）以上となりました。台風や害獣による被害などがあったものの、多くのボランティアの方に支えられ、今年も約120 kgのコットンボールを収穫することができました。

● Tシャツ・ハンドタオルを制作

公募で選ばれたデザインTシャツを制作、また、100%Tattonの収穫でハンドタオルを制作、販売しました。



また、今年度はこれまでの「塩害からの復活」だけではなく「**新しい地元産業の創出**」も活動の目的としました。

● 新しい地元産業の創出

観光庁の事業認定を受けた『Tatton体感バスツアー』を3回開催。（8月・10月・12月）

● 『めざましライブ for Tatton』も開催！

11月には初の試みとして、横浜国立大学の文化祭で「めざましライブ for Tatton」を開催。Tattonプロジェクトの趣旨に賛同する女優の松下奈緒さん、アーティストのシクラメンとカサリンチュがボランティア出演。グッズの売上は全額 当プロジェクトへ寄付されました。（松下奈緒さんは、こうした活動にインスパイアされて作られた『Tattonプロジェクト』のイメージソング「うんとしあわせになろう」を歌うことになりました。）

もちろん、プロジェクト当初から参加しているゴールデンボンバーや生野陽子アナウンサーも引き続き現地での作業に参加しています。



2013年度は、これらの模様を「めざましテレビ」で合計8回にわたって放送。2014年度には新たなアーティストの参加や、様々なイベントを予定しており、一層大きなプロジェクトとして発展させていく予定です。

2011 年

福島県新地町の田んぼで綿花を栽培し、35キロのコットンボールを収穫。小さな一歩は「この土地でまた作物が作れる」という大きな希望となりました。この模様を、「めざましテレビ」メインキャスターの生野陽子アナウンサーが現地を訪れ、種まきから収穫まで随時放送で紹介。最初の年は、収穫された綿花でTattonプロジェクトのタグ（ワッペン）を作りました。

2012 年

ゴールデンボンバーもプロジェクトに参加！宮城県東松島市など、プロジェクトに参加する土地も増え、秋には約120kgのコットンボールを収穫することができました。なお福島県新地町の圃場は、すでに水田として復活し、コメ作りの田んぼに戻っています。



こども笑顔プロジェクト テレビ美術がやってくるー!



災害復興支援

『こども笑顔プロジェクト』を開催

～テレビ美術の力で被災地の子どもたちに笑顔届けたい～
フジテレビ美術制作局×八美会が協力し初の試みが大盛況



フジテレビ美術制作局と美術協会社からなる八美会（参加40社）とが連携して、「美術チームでなくては出来ない被災地支援を含めた社会貢献活動を行いたい」という思いでこのプロジェクトを立ち上げました。

その第1弾として、10月20日岩手県大船渡市のショッピングセンターで、地元の子どもたちとテレビ美術の裏側を紹介、一緒にセットを組み立てたあと人気キャラクターに扮して写真撮影をするなど、多くの方々と楽しみを分かち合いました。

地域のPTAや商店街にも協力関係を築き、ご好評をいただきました。

実施内容 2013年10月20日

1. 子どもたちと一緒にセットを建てる。
さらに建てたセットに色塗りをする。(大道具)
2. 輪ゴム鉄砲を作る。作った輪ゴム鉄砲で射的をする。
(輪ゴム鉄砲の材料はセットから出た廃材)
3. フジテレビの人気キャラクターに扮する。
サザエさん・波平さん・カツオ君・ワカメちゃん・
小坊主・パカ殿様の6種類（メイク・かつら・衣裳）



セットの廃材から輪ゴム鉄砲を作るコーナー。約150人が参加してくれました！

今後もこの『こども笑顔プロジェクト』を継続し、被災地の子どもたちに笑顔届け、少しでも復興の役に立てればと思います。（第2回 2014年4月20日に宮城県名取市関上にて開催）

サザエさん

社会貢献



トピックス

災害復興支援活動

社会貢献活動

環境活動

グループとの取り組み

コーポレートガバナンス

人材育成と職場環境

国民的アニメ「サザエさん」放送開始45周年

1969年10月5日の放送開始以来、世界一の長寿アニメとして親しまれている「サザエさん」

2013年度は、『フジネットワーク・サザエさん募金』を初めて実施し、台風被害にあったフィリピンのレイテ島を支援しました。

また、被災地を皮切りに全国を巡回した『ありがとう45周年！みんなのサザエさん展』など数多くのイベントを開催しました。

フジネットワーク サザエさん募金を実施

～台風被害をうけたフィリピンのレイテ島を支援～

FNS（フジネットワーク）では、2013年11月8日、台風30号により甚大な被害を受けたフィリピンのレイテ島の被災地支援のため『フジネットワーク・サザエさん募金』を実施しました。

報道・情報番組及びインターネット・ホームページにて、災害発生の翌週から募金の呼びかけを実施。

期間は2013年11月15日～12月21日の37日間。

みずほ銀行、三菱東京UFJ銀行、郵便局、NTT東日本・西日本（ダイヤルQ2）で広く募集を募った結果、全国から1,400万円を超える募金が寄せられ、公益財団法人 日本ユニセフ協会を通じて現地のユニセフ事務所に直接送金されました。

募金総額 14,210,696円

この『フジネットワーク・サザエさん募金』は、2011年の東日本大震災時にフジテレビをはじめとするFNS系列28社が展開した『フジネットワーク募金』から名称変更したもので、国内外に大規模災害が発生した時の緊急災害募金として今回が初めての実施となりました。



「サザエさん」放送開始45周年を記念して様々なイベントを開催



ありがとう45周年！みんなのサザエさん展

サザエさん放送開始45周年を記念して、これまで長きに渡り「サザエさん」を愛してくださった全国の視聴者の皆様への感謝の意をこめて、放送史上初めて、アニメ「サザエさん」の世界を直接楽しんでいただこうと企画された特別巡回展を開催しました。まずは、東日本大震災の被害に遭った被災地のみなさんに楽しんでいただけるようにと、仙台から巡回を開始しました。

期間：2013年10月16日(水)～（2015年10月までを予定）

会場：宮城・仙台三越を皮切りに、全国30か所以上巡回。

アニメ サザエさん展『サザエさんと日本一周！』

「サザエさん」の「日本全国を巡るオープニング」に焦点をあて、各都道府県のサザエさんの好きな場所など、今までに放送されたオープニングから全国の名所・名物を紹介する展示会を長谷川町子美術館で行い、各地の自然や文化の素晴らしさを紹介しました。

期間：2013年7月13日(土)～9月1日(日)

会場：長谷川町子美術館

※サザエさん放送開始45周年を記念した特別番組については28ページに記載しています。



報道：防災FNN「いのちを守る」企画

一人ひとりの備えと行動が災害時の「自助」となり、やがて「共助」、そして「公助」と一体となって私たちの生命と財産を守ることにつながることを願っています。



2014年1月、FNN（フジニュースネットワーク）の各ニュース番組で防災『いのちを守る』企画をスタートしました。

日本に暮らしている以上、災害からは逃れられません。

巨大地震、活火山、気候変動の影響なのか台風、竜巻も頻発しています。

自然災害の発生は抑えられません。

しかし、被害を抑えることはできます。

そのために何ができるのか…。

視聴者の方々と一緒に考えながらこの企画を発信し続けたいと考えています。

防災『いのちを守る』企画 3ヵ月で25回放送

1回目の放送で紹介した東京・墨田区の町内会。その町は木造住宅密集地域で大地震が起きれば甚大な被害が出ると心配されていました。町内会は近所同士で助け合う様々な取り組みを行っています。「見守り隊」「放水訓練」そして何より大切な「ご近所づきあい」が町の防災につながっていました。



【放送内容】

●フジテレビ

「近所付き合いを大切に」「日頃から身を守る方法を教える」「“通電火災”への対策」「日本で唯一、防災科のある兵庫県立高校を取材」「高層マンションと地元住民の防災協力」「オオタニ天気×いのちを守る 寒暖差で雪が危険な状態に」「災害弱者をどう救う…高齢化の波も 豪雪地帯を取材」「通信業界の災害対策最前線」「在留外国人も防災への備えを」「墨田区がマンションに防災認定制度」「災害に備えラジオを用意」「防災教育が各地に広がり」「マンションなどの災害対策」「やさしい日本語で学ぶ防災」「大災害時の都心部での備え」「感震ブレーカーで通電火災を防ぐ」

●北海道文化放送「落ち着いてエアポケットの確保」「事前に気象・道路情報の確認」

●テレビ静岡「先人の知恵を今に生かす」

●長野放送「雪下ろしは必ず2人以上で」

●関西テレビ「建物倒壊に備え逃げ道確保」

●東海テレビ「ライフラインに井戸水を見直す」「散歩して自分たちの町を知る」

「生き抜く力を歌って身につける」

●高知さんさんテレビ「実践教育で生き抜く力を育む」

(2014年1月～3月放送分)



放送した内容はホームページにて公開しています。

<http://www.fnn-news.com/bousai/fnn/>

災害に強い放送システム ～視聴者が知りたい情報を正確に届けるために～

FNN〔フジニュースネットワーク〕大規模災害訓練放送



FNN系列各局と協力して毎年大規模な災害訓練放送を実施しています。2013年11月9日には、四国沖で南海トラフ地震が発生し、最大震度が7、四国や九州、紀伊半島沿岸を巨大津波が襲うという事態を想定して行いました。フジテレビが制作する特別番組という形態で、各被災ポイントからの中継放送などをシミュレートし、各局の連携がスムーズに行えるかなどの検証。訓練により浮かび上がった課題を検証し、いざという時に備えています。

FNN原発問題専門取材団

東日本大震災発生直後からFNN各局は被災地福島に応援要員を派遣してきましたが、震災3年を機に原発問題専門取材団として新たな取材を開始しました。福島第一原発は廃炉まで30年～40年とみられており、息の長い取り組みとなります。

取材班の継続的派遣はもとより、再稼働や最終処分場などの諸問題を定期的に勉強する機会を設け、専門記者の育成を行っていきます。



災害に強い放送設備の開発・強化を行っています

震災放送スタジオの強化

本社被災時においても、迅速に緊急災害報道ができるよう、スタジオ・編集・衛星設備の機能強化を施し、国民の生命に関わる災害報道を継続すべく設備強化を行いました。

震災中継関連設備の強化

大震災時に、迅速で正確な災害中継・伝送を行うため、可搬型衛星設備・緊急連絡用無線機・衛星電話の各所配備、情報カメラや伝送基地の無停電化を行いました。

災害報道体制の強化

本社被災時においても、緊急災害報道ができるよう構築した支局・編集・衛星設備のオペレーションについて、部員の定期的な訓練を重ね、災害報道を継続できる体制を維持しました。

災害時に役立つ技術開発

災害発生後に携帯電話や固定電話など通常の連絡手段が使用できない状況下、代替コミュニケーション手段としてSNS等のIP網の活用について研究し、災害支援ツールの開発を行いました。

放送告知システム

緊急地震速報などを安定して放送できるよう必要な設備の導入を行い、被害の軽減を図りました。

スタジオ照明の安全対策

地震が起きても照明ボタンが揺れて衝突しないように、十分な間隔をとるようにしました。停電が起きても、スタジオ照明が落ちない、または瞬間点灯するようにLED光源機材とUPS電源を導入しました。

本社への出社が困難になった場合のパソコン環境の構築

非常時にも継続して業務を行うことができるように、自宅、支社、出先からでも必要なシステムにアクセスできるIT環境を作りました。

全社的な防災活動 ～全社一丸となって防災に取り組んでいます～

震災を忘れることなく、また首都大地震への注意喚起のため、単なる防災訓練にはとどまらず、約1週間にわたり全社員参加型訓練（消火栓・階段避難車・AED）の実施、普通救命講習による資格取得、講演会、防災グッズの販売などで防災意識を啓発しました。また、来訪者を想定した避難誘導訓練を併せて行いました。災害時に社員・スタッフ全員がスムーズに対応できることを目指し、毎年2回、9月と3月に防災に関する啓発活動を行っています。

実施期間：①2013年9月24日～27日・②2014年3月10日～14日



防災コアメンバー「JKB48」

防災コアメンバー48名を選出！

- ◀ 9月の防災ウィークを機に、防災に高い関心を持ち、防災意識の啓発にリーダー的役割を果たしてもらうため、防災コアメンバー48名を各部署より選出しました。

備蓄食料などの補充

5,000人が1週間過ごせる食料と災害時に役立つ毛布・自転車・自動二輪車・ヘルメットなど備蓄品を常備し、消費期限を管理し不足分は補充しました。

転倒予防の補強対策を強化

レイアウト変更などのたびに、館内のキャビネット・コピー機などが固定してあるか再確認し、必要に応じ補強金具を使用し補強を強化しました。

災害時帰宅困難者への備え

帰宅困難者対策のため、社員・スタッフの帰宅抑制のほか、来訪者などの館内滞留者への対応検討と帰宅困難者用備品を充実させました。

災害用屋外放送

大規模地震対策特別措置法に基づき、帰宅困難者に対する情報の提供及びその他一般見学者に情報提供する設備を整えています。

災害への「備え」をチェック

各部署での避難通路・消防設備など「備え」に対するチェックと聞き取り調査を実施し、改善しました。

帰宅支援セットの斡旋

災害時徒歩での帰宅に備え、水、食料などの帰宅支援グッズを社内で販売しました。

AEDの設置

本社ビルには、AEDを合計22台配置。その内2台は一般のお客様対応として一般見学エリアに配置。また、一般見学エリアにAED収容型の自動販売機1台を設置。湾岸スタジオには、AED6台を設置。

防災に関する講演会の開催

名古屋大学減災連携研究センターで行われる地震防災に関する勉強会に年に数回出席したほか、地震防災に関するシンポジウムなどに積極的に参加しました。

冊子【大震災対策】の改訂

災害時のマニュアルとして内容変更毎に改訂し、全社員に配布しました。



防災意識が高い企業として芝消防より特別表彰されました！

10月8日には、東日本大震災が発生した2011年から3年連続となる「防災ウィーク」の開催など、継続的に防災力の向上に積極的に取り組んでいることに対し、芝消防署より特別に表彰されました。

救急業務への積極的な取り組みに対し芝消防署長より感謝状も…

これまで10回、261名の社員・スタッフが『普通救命講習』を受講。こうした災害時に向けた対策に対し、「救急医療週間」（9月8日～14日）において、日頃から救急業務に積極的に取り組んでいる事業所として、芝消防署長より感謝状をいただきました。

フジテレビのCSR活動

2013年4月～2014年3月

災害復興支援活動

Support for reconstruction of disaster-affected areas

P15



社会貢献活動

Contribution to society in various fields

P22

環境活動

Environment

P37



フジサンケイグループ各社とともに行った取り組み

With FUJISANKEI COMMUNICATIONS GROUP

フジ・メディア・ホールディングス各社
とともに行った取り組み

With Fuji Media Holdings Group

P43, P45

災害復興支援活動

Support for reconstruction of disaster-affected areas



フジテレビずっとおうえん。プロジェクト

被災地を「ずっと」忘れない…

ニーズに合わせた様々なイベントを

CSR推進プロジェクト

フジテレビCSR推進プロジェクトでは、東日本大震災発生後から被災地復興支援活動を継続して行っています。発災直後は、『こどもおうえんプロジェクト』として、物資を直接被災地に届けたり、子どもたちを対象にした食育や朗読イベントなどを行ってきました。そして震災から1年たった2012年4月からは、子どもだけではなく大人、お年寄りに支援対象を広げた『ずっとおうえん。プロジェクト』を始動。そして2013年からは、障がいを持つ方にも活動の対象をひろげてマジックショーや朗読会を実施。被災地を「ずっと」忘れないという強い思いと、フジテレビらしい「支援力」で、“新たなコミュニティづくり”のお手伝いをしています。

2013 年度

48ヶ所に伺い5,400人と出会いました



1. 宮城県岩沼市の保育園で食育イベント
2. 長野県栄村の保育園で食育イベント／老人ホームでちびまる子ちゃん上映会&朗読会
3. 岩手県久慈市の保育園で食育イベント
4. 福島県郡山市の幼稚園で食育イベント
5. 福島県会津若松市さざえ堂で朗読会
6. 宮城県南三陸町障がい者施設でマジック付朗読会
7. 宮城県気仙沼市の浜の会所、竹の会所で朗読会
8. 岩手県釜石市の保育園で食育イベント
9. 宮城県仙台放送祭りで食育イベント
10. 福島県南相馬市で「BSフジ」よりプレイマット寄贈・チャギントン上映会
11. 岩手県二戸市「手をつなごう育成会」イベントでマジック付朗読会を開催
12. 宮城県利府町「さわおとの森」にて食育イベント
13. 岩手県普代村・久慈市の保育園で食育イベント
14. 宮城県七ヶ浜町で「ガチャピン&ムックとクリスマス」イベント開催
15. 伊豆大島の保育施設で「ラフくん&クリスマス」イベントを開催
16. 宮城県東松島市の保育園で食育イベント
17. 岩手県野田村の保育園で食育イベント
18. 宮城県仙台市の英会話保育施設で食育イベント
19. ディノスの東北支援イベントとコラボ
20. 岩手県大船渡市で「みちのく合衆国」開催

－ 2011年3月～2013年度末までに伺った場所 －

139ヶ所

Total 参加人数：約 14,000人

2014年3月31日現在

2011年3月～2012年3月『こどもおうえんプロジェクト』	53ヶ所 約5,000人対象
2012年度『ずっとおうえん。プロジェクト』	38ヶ所 約3,700人対象
2013年度『ずっとおうえん。プロジェクト』	48ヶ所 約5,400人対象



1. 発災当初は被災地に物資を届けました / 2. 2011年12月 ガチャピンムックとクリスマス in 南相馬 / 3. 2012年9月 気仙沼市の竹の会所にて / 4. 2012年5月19日 岩手県陸前高田市サンビレッジ高田にて映画「ワンピース」上映会 / 5. 2012年11月3日 福島県二本松「安達が原ふるさと村」にて朗読会 / 6. 2012年10月6日 宮城県東松島市矢本武道館にてインド大使館とコラボイベント

すべての活動にアナウンサーが協力 計23人



フジテレビアナウンサー13人

牧原俊幸アナ・西山喜久恵アナ・奥寺健アナ・川野良子アナ・佐々木恭子アナ・遠藤玲子アナ・田淵裕章アナ・生田竜聖アナ・久代萌美アナ・三上真奈アナ・内田嶺衣奈アナ・木村拓也アナ

系列局のアナウンサー10人

- 仙台放送：広瀬修一アナ・稲垣龍太郎アナ・木下瑠音アナ・高谷恵倫アナ
- 岩手めんこいテレビ：千葉絢子アナ・西條詩菜アナ・井上智晶アナ・増田優香子アナ
- 福島テレビ：若槻麻美アナ
- 長野放送：平松奈々アナ

震災報道の基本姿勢

東日本大震災で被災地が受けた傷跡は、いまだに残っており、「東日本大震災」という災害はまだ続いています。未曾有の大震災を風化させない、被災地の方々を忘れないということが、私たちメディア企業の社会に対して約束する「責任」とも言えます。

以下のような基本姿勢に基づき、各番組において震災企画を放送しました。

—— 東日本大震災の被災地に関連するニュースを毎日放送しています。 ——

東日本大震災1年を機に「被災地発ニュース」を毎日放送する方針を決め、これまで2年間にわたって継続して放送しています。今後もこの方針を続けていきます。

東日本大震災の報道基本姿勢

フジテレビ報道局はテレビ放送の公共性に鑑みて、今後も東日本大震災にかかわる事象を多角的に取材、多様な形態の番組で報道を継続する。

震災と被災地を忘れないための報道の継続

東日本大震災そして被災地を忘れない。震災関連の報道を続けていくことが報道機関の責務と考える。そのためには復旧・復興という表面上の動きを伝えるだけでなく、被災した人の感情に配慮した取材を継続し、その気持ちを理解し寄り添うことが必要であると考え。また、報道を続けることで全国の人々が震災と被災した人の現状についての理解を風化させないことに寄与するほか、時の経過と共に見えてくる問題点を追いつける。

「FNNスピーク」はこれまで2年間に亘って被災地関連のニュースを連日放送してきたが、今後もこの方針を堅持していく。

震災に関わる政治や社会の動きの報道

被災地では仮設住宅での生活が長引いていて、復旧・復興へ向かいつつあるとは言え、問題はまだまだ山積している。そのための政治・行政の動きが迅速、公平であるか、幅広く伝えることが必要と考える。特に福島第一原発については、汚染水問題等、いまだトラブルや問題が継続していて、廃炉完了までまだまだ長い道のりが続くことを忘れず報道していく。

国民の生命と財産を守るための防災報道

地理的条件の違う全国各地の防災対策を取材し、いざというときに国民が「命を守る」行動がとれるように、平時から放送し続ける。災害の「警戒」「発生」情報が発表された時は、無用に不安をあおることなく視聴者に伝え、被害を抑制することを目指す。

災害即応体制の構築とスタッフのスキルアップ

テレビ報道における災害報道は早さと正確さが担保される必要がある。そのために取材ヘリコプターの緊急出動態勢を整える他、放送機器のバックアップ態勢を構築するなど、取材、放送設備の拡充を図る。また、様々な被害状況を想定し、記者、ディレクター、アナウンサーのスキルアップに向けた訓練を繰り返す。

震災関連番組 ～あれから3年…数多くの特別番組を放送しました～

報道

● 「あの日が教えてくれること～東日本大震災から3年～」

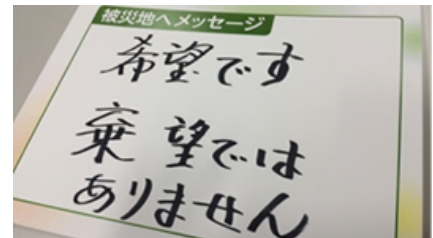
2014年3月11日放送



2万人もの犠牲者を出した東日本大震災から3年となる3月11日、報道局がFNN系列各局と協力し、発災時刻14時46分に合わせて特別番組を編成。スタジオに福島出身の俳優・西田敏行さんを迎え、政府主催の追悼式や被災地からの中継を交えて生放送で進行了しました。福島、宮城、岩手の各地で行なわれた追悼の様子も中継映像で伝えました。この模様は新宿アルタビジョンでも放送され、大勢の人が足を止めていました。また、安藤優子キャスター、加藤綾子アナ、大島由香里アナ、椿原慶子アナ、榎並大二郎アナの5人が事前に被災地取材。発災直後の知られざるエピソードや未公開映像から「3年前のあの時」を徹底検証し、視聴者が「もし自分も同じような災害に遭遇したら…」と身をもって感じられるような内容を心がけ、わかりやすく解説しました。



福島・浪江町を取材する安藤キャスター



番組内で西田敏行さんが書いたメッセージ

「地震の発生は止められないが、悲劇を減らすことはできる」とのメッセージを含め、「犠牲者への追悼」とともに「今を生きる人への教訓」を盛り込みました。

● 「ニュースJAPAN」 福島の現状をシリーズで放送



『福島最前線からの報告』は、2011年10月から、シリーズ特集としてスタート、放射能と対峙して生きる福島の人々の苦悩と希望をお伝えしています。今年度は福島県内で梨を作っている果樹園農家の放射能との闘いの様子、福島第一原発から半径20キロ圏内の稲葉町で震災後初めて自宅で年越しを迎えた家族に密着するなど、原発事故で今も振り回される福島の現状を放送しました。これまで28回にわたり放送。

▶ 特設サイト http://www.fujitv.co.jp/nj/fukushima_28.html

● 「新報道2001」 福島第一原発 水との戦いと今後の賠償

2013年10月6日放送

福島第一原発で最も問題となっている地下水・汚染水取材。スタジオには自民党・塩崎恭久氏らをゲストに賠償と廃炉を進めていくための東電の今後のあり方を議論しました。

● 「BSフジLIVE プライムニュース」

2013年10月6日放送

番組の特色である政治・行政の視点から考えた「被災地・防災のためにできること」を中心的なモチーフに、幅広い角度から継続的に復興・防減災のテーマを取り上げました。特に今年度は依然として深刻な爪痕が残る福島原発を中心とした政策課題や、被災地・避難民のケアなどの問題がテーマになりました。

5月16日放送 被災地の農家に聞くコメ作りの現状

8月21日放送 相澤東電副社長に聞く汚染水海洋流出

9月10日放送 震災・心のケアの現状

12月10日放送 避難住民の現状と課題

ほか

情報・ドキュメンタリー

● <特別番組> 「わ・す・れ・な・い～“巨大津波”3年後の新検証～」

2014年3月9日放送



「わ・す・れ・な・い」シリーズでは、2011年の8月から過去4回にわたり甚大な被害をもたらした“巨大津波”の挙動を膨大な視聴者の映像と証言に基づき、時系列に沿って検証してきました。

5回目となる今回のテーマは、「3年経ったからこそわかったこと」。

岩手・宮古市を襲った“40M超の津波”発生之谜を入手した映像と最新研究によって解明。岩手県沖で発生した“もうひとつの津波”が引き起こした“巨大化”メカニズムに迫りました。さらに、首都圏最大の津波被災地、千葉県旭市を襲った津波についてもほぼ全編、テレビ初公開となる津波映像で検証し、震源地から遠く離れた場所で地震発生から3時間近くが経過して襲った津波の真実を明らかにしました。

● 「ザ・ノンフィクション わすれない 三年後の肖像」

2014年3月9日放送



3年前の東日本大震災で大きく変わった人々の暮らしを、地震発生直後から取材。彼らはこの3年間でどう生き抜き、今どうしているのか。津波で亡くなった妻との約束を果たすべく牡蠣養殖の再開に取り組む漁師の姿や、多くの幼い命が犠牲になった大川小学校で救出された児童のその後の成長など、現在も宮城県石巻市で暮らす4つの家族を取材しました。

● 「わ・す・れ・な・い ～明日の君に逢いたい 2013夏～」

2013年9月1日放送



ニューヨークフェスティバル入選作品

震災直後から家族・友達・故郷をなくした子どもたちの取材を始めました。今回は震災から2年半が経った3人の変化をまとめた番組の第2弾。74人が津波の犠牲になった大川小学校で奇跡的に助かったてっちゃん（14）は、母・妹・祖父も失いました。震災後写真を撮るようになりましたが、その裏には亡き家族への思いが…

佳祐（9）は家族全員を亡くし、独り身の伯母との新生活、2年半の歳月が二人の壁を溶かしていく…福島第一原発から16キロに住んでいた絵理奈（15）。高校受験で福島に戻るか、避難先の埼玉に残るか悩む。震災が子どもたちに与えた影響を探りました。

● 「1F（イチエフ）作業員～福島第一原発を追った900日～」

2013年11月6日放送



2013年夏には汚染水漏れが発覚するなど困難を極める福島第一原発、通称“1F（イチエフ）”廃炉への道のり…2年半に渡り50人以上の原発作業員に取材を続け、被ばくしながら働き続ける現役作業員2人が初めて取材に応じてくれました。

汚染水を巡る深刻な実態が語られ、1Fの実情が見えてきました。地元の被災者でもある彼らは、避難した家族とは離れ離れに暮らしています。悩んだ末に1Fを去る決断、また1Fに残る葛藤に迫りました。

この作品はFNSドキュメンタリー大賞に出品されました。

※毎年開催されている「FNSドキュメンタリー大賞」の放送では、FNS系列各局が制作する被災地の現状を描いた番組を数多く放送しました。決して風化させてはならない、という被災地の強い想いや被災した方々の現状を伝えました。

◎このほか震災から3年を迎えた2014年3月11日に、「めざましテレビ」「とくダネ！」などの番組で被災地からの生中継を交えて特別企画を放送しました。

スポーツ・バラエティ番組

● 「すぽると！」で被災地関連企画を放送

被災地支援を続けるアスリートたち（「東北人魂」小笠原満男（鹿島アントラーズ）を中心としたJリーガーや被災地からJリーグに参戦する福島ユナイテッドFCなど）の取り組みを番組で取り上げることで、東日本大震災を風化させないよう視聴者に向けてメッセージを発信しました。

● 女子バレーボール FIVBワールドグランプリ2013 仙台大会

JVA（日本バレーボール協会）と連携して、女子バレーボールの国際大会であるFIVBワールドグランプリ2013の予選ラウンドを被災地・仙台に誘致し、被災地に勇気と元気を届けると同時にその復興を全国に向けて放送しました。

● バラエティ番組「SMAP×SMAP」内で支援金の告知を継続

震災の義援金・支援金募集の15秒告知を、震災後の2011年3月21日放送以降の全ての回で放送。

※2014年3月24日放送分で通算136回。震災直後～2012年度は日本赤十字社「東日本大震災義援金」の告知を行い、2012年4月には日本赤十字社より感謝状を頂きました。

その後、同義援金の募集が終了したため、2013年度より「公益財団法人 東日本大震災復興支援財団」の支援金募集のSPOT告知に切り替え、放送を継続しています。

● CSでも被災地関連企画を放送

■ 「フォーク・デイズ第89章 ～さらなる復興へ・がんばろう東北～」フジテレビNEXTで放送 2014年3月9日

■ 福島テレビ開局50周年感謝ライブ「福歌。2013」フジテレビNEXTで放送 2013年8月8日

■ 「ベストオブレ・フレール LIVE&DOCUMENT ～兄弟ピアノデュオ10年の軌跡～」フジテレビNEXT

レ・フレールが定期的におこなっている被災地の幼稚園や学校を訪問しての演奏会の様子などの密着ドキュメントなどを盛り込んだ内容を放送しました。

映画をつうじた復興支援

● 映画「遺体 ～明日への十日間～」上映会



震災から3年たった2014年3月に合わせ、被災3県にて君塚良一監督の舞台挨拶付き上映会を実施しました。また、その他にも各地で無料上映会を実施。

※映画「遺体～明日への十日間～」は、石井光太氏の著作『遺体 震災、津波の果てに』（新潮社刊）をもとに、君塚良一監督が新たな取材を重ねて映画化したものです。
東日本大震災発生直後の岩手県釜石市の知られざる真実を描いた作品です。
(2013年2月23日全国公開)

● 映画「JAPAN IN A DAY」をつうじた被災地復興支援



「ソーシャルムービーで考える被災地支援」と題して、大学や企業などで、映画「JAPAN IN A DAY」に関する講演会を実施、被災地復興支援の在り方などを議論しました。

※「JAPAN IN A DAY」は、東日本大震災から1年経った2012年3月11日の「日常のひとコマ」を世界中の人々に撮影してもらい、映像を紡ぎ合わせて一本の映画を作ろうというプロジェクト。リドリー・スコット率いるスコット・フリーとフジテレビの共同プロジェクトで映画は2012年11月3日に全国公開されました。

その他

● 『ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団2013』によるアウトリーチ

TDKが特別協賛についているオーケストラコンサートシリーズ。2013年度はベルリンフィルを2年ぶりに招聘し、被災地の宮城県宮城郡松島町にて、地元の中高生を招いての音楽レッスン（アウトリーチ）を開催しました。アウトリーチでは、弦楽四重奏団「フィルハーモニア・カルテット・ベルリン」が被災地を訪れ公演。地元の方々と交流の様子は、「スーパーニュース」でも放送されました。（11月17日）

● ベネズエラ発・音楽教育プログラム『エルシステマ』福島県相馬市の取り組み

2012年秋ベネズエラ発の音楽教育プログラム『エルシステマ』が福島県相馬市で日本で初めてスタート。立ち上げ時から国際局がテレビ取材のコーディネーションに協力し、以後継続的に報道番組内で紹介。『エルシステマ』で学ぶ相馬市の小学生、保護者、学校関係者を通じて、原発問題と向き合っている相馬市に暮らす人々の現状を伝えました。

● DVD「自衛隊だけが撮った0311」の収益の一部を寄付

DVD「自衛隊だけが撮った0311」の収益の一部（52万114円）を公益財団法人日本財団ハタチ基金へ寄付。

● 岩手・宮城・福島 ローカルTime “FNN被災地発...”



あれから3年…ウェブサイトをつうじ「被災地のいま」を毎日配信

未曾有の大災害から復興途上にある“被災地のいま”を継続的に伝えるため、岩手、宮城、福島の3県内で放送されているローカルニュースを、FNNニュースサイトとYouTube FNN公式チャンネルを通じ、全国に向け毎日配信しています。被災地を遠く離れて避難生活をする方々に、また被災地に家族や親類、知人が居て現地の状況を気にかけている方々に、今の被災3県の様子をより詳しく知る手助けになればと考えています。

▶ 特設サイト <http://www.fnn-news.com/localtime/>

● 3.11 忘れない ～FNN東日本大震災アーカイブ～



東日本大震災に関する報道を目的に収集された、大地震や大津波、それによる被害の実像等を伝える映像群をアーカイブ化し、日本語と英語の字幕表示も付けて、FNNニュースサイトとYouTube FNN公式チャンネルで全世界に向け公開しています。

その映像は国立国会図書館と総務省がまとめた「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称ひなぎく）」と連携し、広くアクセスできるようになっています。

▶ You Tube公式チャンネル <https://www.youtube.com/user/FNN311>

社会貢献活動

Contribution to society in various fields



トピックス

災害復興支援活動

社会貢献活動

環境活動

グループとの取り組み

コーポレートガバナンス

人材育成と職場環境



チャリティキャンペーン

FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマとしておこなっているチャリティ活動です。海外における恵まれない子どもたちの支援を目的に、フジテレビをはじめとするFNS系列28局が日本ユニセフ協会と連携して40年間にわたって実施しています。

2013年度の支援国 ネパール連邦民主共和国

2013年度の第40回FNSチャリティキャンペーンは、アジアの「ネパール連邦民主共和国」の子どもたちを支援しました。ネパール連邦民主共和国は世界でもっとも貧しい国のひとつで、「世界子供白書2012」によると、1日1.25ドル以下で暮らす人の割合が55%と、国民の半数以上にものぼっています。これは、アジア諸国の中では最も高い割合です。

また、ユニセフ・ネパール事務所によると、児童労働が大きな問題となっており、5歳から17歳までの40%が働いています。この中には、長時間労働を強いられ学校に行けない子どもも多く、彼らは十分な食べ物も与えられず、医療も受けられないことが多いとのこと。さらには虐待を受けている場合も少なくありません。

虐待から逃れて路上で暮らす子どもは人身売買の危険にさらされており、特にインドとの国境沿いの町でこういったケースが多発しています。



©日本ユニセフ協会



©日本ユニセフ協会

FNSチャリティキャンペーンでは、こうした子どもたちを少しでも助けたいという思いから、ネパール連邦民主共和国に取材に入り、現地の状況を放送で紹介、全国のフジテレビ系列局と共に募金活動を行ってまいりました。

2013年度の募金総額： 47,972,343円（最終寄付金額 44,453,995円）

集まった募金は、公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に使われています。

● 番組放送・配信による募金活動

- 公益財団法人日本ユニセフ協会の協力のもと、2013年4月25日～5月11日に支援国ネパール連邦民主共和国の現地取材を行い、その模様を情報番組「とくダネ！」内で放送して募金を呼びかけました。（5月27・28日放送）
- チャリティープログラム「明日の見えない子供たち～ネパール報告～」をフジテレビTWO、フジテレビNEXTで放送しました。
- 募金の告知スポットCMを制作して系列局に送り、各局の募金支援を行いました。
- 「とくダネ！」で放送した映像素材をもとに30分の番組を制作し、BS、CS、系列局ローカル枠にて放送し、募金活動の支援を行いました。
- 上記の番組をインターネット（PC、タブレット端末、スマートフォン）にて無料動画配信。さらに過去の名作ドキュメンタリーを有料で閲覧できる「動画ライブラリー」を開始しました。この閲覧料がそのまま募金になります。



現地を取材し「とくダネ！」内で報告した森本さやかアナ（2013年5月27・28日放送）

● 映画興行収入の一部を日本ユニセフへ寄付

フジテレビ製作の映画の収益から総額600万円の寄付を行いました。

- 2013年6月29日公開 「真夏の方程式」
- 2013年8月3日公開 「謎解きはディナーのあとで」

● チャリティキャンペーン推進室による取り組み

- NTT電話サービス（ダイヤルQ2）での募金（通年）。1通話315円が寄付。
- フジテレビ18Fコリドールのワゴンセール実施（通年）。売り上げの1割を募金へ。
- 募金箱設置（通年）
フジテレビ局内各所、アクアシティお台場、デックス東京ビーチ、東京駅の複数店舗に協力要請。
- ポスターやDVDの無料貸し出し（通年）
- チャリティグッズの販売（通年）

● FNS系列局との取り組み

- 年2回（5月、11月）に系列局のチャリティ担当者を集め、各地区の募金活動に関する報告と情報交換を行うとともに、FNSチャリティ活動に対する意識を高めるための研修を行いました。
- 森本さやかアナウンサーによるネパール現地取材報告講演会をFNS系列各局の主催で開催。
- FNS系列27社の独自イベント。全国各所への募金箱の設置。

● イベントからの寄付

- 2013年7月13日～9月1日 『お台場合衆国2013』 イベントブース募金（全額）
- 2014年1月10日～19日 『ふるさと祭り東京2014』 での全国地酒ブース募金（全額）
募金者にお好みの地酒を提供

● ライセンス商品による寄付

「ラフくん・ガチャピン・ムック人形焼」の売り上げの2%を寄付

● 協賛団体のチャリティ催事からの寄付

2013年

- 6月6日～9日：きくや宝石店 第31回夏の宝石展示会
- 6月7日～9日：上野向島質屋協同組合 質屋のチャリティバーゲン
- 6月7日～10日：城南質屋協同組合 シッチーのチャリティフェア
- 7月5日～7日：日医工女子オープンゴルフトーナメント
※贈呈式は8月30日にフジテレビ本社にて実施
- 9月26日：全国宝石卸商協同組合関東支部 チャリティゴルフ大会
- 9月26日：東京成徳大学高等学校 文化祭「桐蔭祭」
- 11月8日～10日：上野向島質屋協同組合 元祖質屋のチャリティ大バーゲン
※会場にて、チャリティくじ引きを同時実施
- 11月15日～17日：城南質屋協同組合 シッチーのチャリティフェア

2014年

- 1月26日：NEXT JAPAN グランプリオーディション

FREE MARKET

「フジテレビの日」
フリーマーケットの売り上げを
全額寄付



夏のイベント『お台場合衆国』期間中、8月8日「フジテレビの日」に、本社屋にてチャリティフリーマーケットを毎年開催しています！
社員が持ち寄った品物を、社員・スタッフが総出で販売。2013年の売上げは、合計1,426,659円（過去最高）。
これを全額FNSチャリティキャンペーンに寄付しました。

オリジナルの出前授業をおこなっています！

● 食育啓発活動 食育イベント『ハロー！どっこくん』

CSR推進プロジェクト



9月仙台放送祭りにて



11月文京区認可保育園父母の会連絡会主催の会にて

2010年にCSR活動の一環としてスタートした食育プロジェクト『ハロー！どっこくん』。FCG総合研究所をはじめとするフジ・メディア・ホールディングス各社が協働で展開しているものです。

子どもたちに食と運動、排泄“いいうんち”を出すことの大切さを教えることを目的とし、“いいうんち”「どっこくん。」をメインキャラクターとして活動を行っており、大型紙芝居や「どっこくん」体操などで構成され子どもたちに大人気です。

これまでの実施回数と参加人数

2013年度	29ヶ所 / 参加人数 3,375人
2012年度	25ヶ所 / 参加人数 2,270人
2011年度	20ヶ所 / 参加人数 1,960人
2010年度	7ヶ所 / 参加人数 1,300人



これまでの実施回数

81ヶ所・約8,900人が参加してくれました！

『ハロー！どっこくん。』の着うた・フルバージョンを音楽配信サイト「フジメロ」にて、携帯・スマートフォンで2010年9月3日より無料配信継続中。

合計ダウンロード数（2014/4/16現在）

● フィーチャーフォン	● スマートフォン
着うた： 1,223	着うた： 6
着うたフル： 1,966	シングル： 11

アナウンサーによる出前授業『あなせん』プロジェクト



『あなせん』（アナウンサー先生の略）とは、2005年にアナウンサーが自主的にはじめた社会貢献活動です。子どもたちのコミュニケーション能力の向上に寄与したいという思いから企画されたもので、これまで東京都 港区・品川区・目黒区の公立小学校において合計約300クラス、のべ9,300人の子どもたちに対して発声、滑舌、インタビュー技術など実践的な授業をおこなってきました。

2014年4月からは『あなせん』をよりニーズに即したものに発展させるとともに、実施エリアをフジテレビの放送圏内（関東1都6県）に拡大、より高い効果が得られるように内容も充実させていきます。

2013年度は6月24日中延小学校（堺正幸アナ） / 11月11日浜川小学校（川野良子アナ）

メディアの特性を生かした取り組み

●『デザインフェスティバル』を開催（2014年2月14日～23日フジテレビ1Fシアターモールにて）



美術局が主催となり、『デザインフェスティバル』を開催しました。

この試みは2013年に続き2回目で、テレビのセットデザイナーという仕事をもっと一般の方にも知っていただきたいという思いで企画されたものです。

今回は「テレビノヒミツ展」と題し、フジテレビを代表する番組がいっぱい詰まった宝箱をイメージ、テレビデザインの裏側で、デザイナーたちが「何を考え、何を伝えようとしているのか」がわかるような演出を行いました。

誰でも気軽に見ることができる無料イベントで、番組のセットの展示や講演会、セットツアーなども行いました。

また、学生への告知も積極的に行い、新しい才能発掘という狙いもあります。さらに、国際局を通じてシンガポールのメディアコープ、韓国のMBCにも出品を依頼し、デザイナーたちの士気向上や視野を広げるきっかけにもなりました。



●『めっちゃイケSA（サービスエリア）』で地域活性化



「めっちゃ×²イケてるッ！」とEXPASA足柄がコラボ『お台場合衆国2013』にて人気を博した『めっちゃイケSA（サービスエリア）』を静岡県東名高速下りの足柄SAにて開催。めっちゃイケメンバーの三中が支配人として派遣され、放送でも毎週のように紹介！その結果、9月からの約5ヶ月で来場者数が昨年より50万人増加し、400万人超が来場。地元リピート客も多く、地域の注目スポットとなりました。また、地元トマトを使用した飲食メニューを発売するなど、地域との連携が地域活性化につながりました。

● ママトコにて児童向け食育・知育啓蒙イベント実施



フジテレビがプロデュースする「おや」と「こども」のエンターテインメントレストラン『ママトコ』。エントランスではガチャピン・ムックやフジテレビのメインキャラクター・ラフくんが出迎えてくれます。

カフェスペースでは、ヘルシーな和食を中心とし、子どもたちが喜ぶメニューをおりまぜたビュッフェが楽しめるほか、保育スタッフのいる安全なプレイルームも。パパ・ママ・キッズたちが楽しめる癒しの空間で、定期的に子ども及びファミリー向けの啓蒙イベントを行いました。

● フジテレビ体感エリア『フジテレビ ワンダーストリート』リニューアル



球体展望室『はちたま』と並ぶフジテレビの人気スポット、本社5階の『きっかけストリート』をリニューアル。人気番組の貴重な展示品や、楽しいフォトスポットなど、ワクワクが盛りだくさんという意味を込めて『フジテレビ ワンダーストリート』と名付けました。フジテレビが放送する地上波、BS、CSの衛星放送に加え、映画やイベント情報などを見て、触って、撮って楽しんでいただけます。今後は、人気番組のコーナーの他、テレビ放送の仕組みなどの展示なども増設し、より多くの来場者をお迎えしていきます。

（2014年3月21日オープン）

●『タイムトリップビュー』を江戸東京博物館にて展開

『タイムトリップビュー』とは、フジテレビが開発したタブレットやスマートフォンを通じて、過去の風景をみることが出来る魅力的なサービスです。2013年8月6日～9月29日の期間中 江戸東京博物館において来館者の方に『タイムトリップビュー』を使って、江戸時代や明治時代の日本橋の景色と当時の生活の様子をご覧いただくコンテンツを提供しました。

メディアリテラシー向上への取り組み

● 青山学院大学 総合文化政策学部「メディア特別論講義」 実施期間：2013年9月1日～2014年1月23日



青山学院大学総合文化政策学部は、文化やアートをマネジメント・プロデュースできる人材の育成をめざしています。TVという分野において、情報制作局員が「番組制作をし、世に送り出していくこととはどういうことか？」をテーマにした週1回の講義を計14回実施しました。このプロジェクトは4年目を迎え、今年は特にワークショップ（体験）形式の講義なども取り入れ（佐々木恭子アナウンサーの講義「聞く力、伝える力」など）、学生たちの高い評価を得ています。

● 早稲田大学プロフェッショナルズワークショップで授業

テレビ番組をゲームやアプリ、イベントなど複数のメディアと組み合わせて増幅させビジネスに広げていく「コンテンツデザイン」の考え方を学生たちが学び、具体的な提案をフジテレビ制作者にプレゼンテーションする産学連携プロジェクト。新しい発想を持った学生たちとテレビ局のクリエイターが出会いテレビ次世代のコンテンツについて考える貴重な場となりました。

● 職業体験型教育プログラム『フジテレビのお仕事！めざましテレビをつくろう！！』



『フジテレビのお仕事』は中学・高校の修学旅行や校外活動を対象とした職業体験型プログラムです。「めざましテレビ」のミニ番組を実際に制作してみることを通じて、テレビ番組を作るのにはどれだけのスタッフが関わっているか等をクラス全員で体験するものです。機材も本物を使用したフジテレビならではのオリジナルプログラム。

※2013年度は約80校9,300名の生徒・先生が参加

1. テレビの仕事体験を通じてのキャリア教育
2. メディアリテラシー
3. コミュニケーション能力
4. チームビルディング力の向上に寄与する楽しく学べる社会貢献教育事業

● アナウンストレーニング講座

フジテレビの現役アナウンサーが大学生や一般の方にアナウンサーの「話すスキル、伝えるスキル」を教えるトレーニング講座です。アナウンサー職を目指している人はもちろん、テレビ局の一般職、一般企業での就活でも必要とされている話す力を伸ばします。番組やイベントを通じて培われたスキルを、若い世代や社会人に向けてシェアする、楽しく学べるフジテレビ直営の社会貢献教育事業です。

● 三井良浩気象予報士による“お天気授業”



報道局気象センターの三井良浩気象予報士が、横浜市立田奈小学校で5年生を対象に気象に関する授業を実施。授業のポイントは①「気圧」について空気の性質、雲のでき方などと共に説明し天気図の見方を学ぶ、②空や風の変化から大雨や雷、竜巻の前兆を察知する方法を学び「自分の身は自分で守る」という意識を持つ、という2つ。天気予報への児童の興味は非常に高く質問が相次ぎ、学校側からも「現場で仕事をする専門家の話は印象が強く、子どもたちの記憶に残る。」との声が寄せられました。

実施日：2014年3月7日

● レギュラー番組「新・週刊フジテレビ批評」を放送

毎週土曜日5：00～6：00放送



1992年4月に、民放初の自己批評番組の先駆けとしてスタート。

テレビの現在や未来を多角的に掘り下げ、視聴者にテレビのことをより深く理解してもらえるよう「メディアリテラシー」の向上にも寄与してきました。2013年度は特に、知る権利や報道の自由などを脅かす恐れがある特定秘密保護法にスポットをあてました。国会で審議される前のパブリックコメント募集の段階から継続的に取り上げ、法律が成立した後も、引き継ぎテレビが注視すべきポイントに関し、専門家を招いてトークする等、こだわって伝えました。

若い才能を発掘・未来のクリエイターを育成

● 第25回『ヤングシナリオ大賞』

シナリオライターの発掘と育成を目指しておこなっている『ヤングシナリオ大賞』。12月22日深夜に放送されたドラマ「人生ごっこ」は、第25回フジテレビヤングシナリオ大賞の大賞作品を映像化したものです。

大賞及び佳作同時受賞者1人と佳作2人の受賞者は、今後もドラマ制作部として、テレビ文化を制作・放送する責務の一環で、次世代のクリエイターとして支援していく方針です。

● 『クリエイターズスクール』を開催

今年度も学生を対象に、未来のドラマ・バラエティのクリエイターの育成を目的に講義・実習を行いました。

就職活動のためだけでなく、学生たちに制作現場を紹介し、フジテレビの取り組みをよく知ってもらうきっかけづくりにもなっています。

若者の夢をおうえんしています！

● 児童養護施設の子どもたちの自立を支援 CSR推進プロジェクト

児童養護施設で生活する子どもたちの自立を応援する目的で行っているスピーチコンテスト『カナエール』。この活動は認定NPO法人「ブリッジフォースマイル」が主催し、“夢”をテーマにスピーチを行った出場者に奨学金が送られるというものです。18歳で退所を余儀なくされ、人間関係がうまく築けなかったり、進学や就職にも多くの壁がある中、コミュニケーション能力を磨くことで社会への適応能力を養おうと2011年に始めました。

フジテレビCSR推進プロジェクトではこの活動に賛同し、伝わりやすいスピーチにするにはどうしたらよいか、フジテレビアナウンサーたちが発声やスピーチの組み立て方などについて個別指導を行いました。（スピーチ指導は2012年より実施 今回で2回目）

<協力してくれたアナウンサー>

田代尚子アナ・奥寺健アナ・伊藤利尋アナ・佐々木恭子アナ・川野良子アナ

● 学生映画祭 2013『Student Films 7 in ODAIBA』 CSR推進プロジェクト

『Student Films 7 in ODAIBA』は、映画を専攻している学生たちに「作品発表の場」を提供し、第一線で活躍する映画製作者と「交流の場」を設ける映画祭で、映画事業局と合同で毎年開催している無料イベントです。

若い才能を育成し日本の映像産業の発展に貢献することを目的とし、2009年に始まったもので、4回目の2013年も7大学〔日本映画大学（日本映画学校）、多摩美術大学、東京工芸大学、日本大学、武蔵野美術大学、早稲田大学、立教大学〕が参加し、7月28日にフジテレビ1階にあるマルチシアターで行われました。

映画上映に続くトークセッションでは、映画評論家の佐藤忠男さんと第一線で活躍する監督やプロデューサー（是枝裕和監督・西谷弘監督・小泉徳宏監督・印南貴史監督）をお迎えし、学生監督と作品について幅広いテーマで語り合いました。

司会：笠井信輔アナ＆内田嶺衣奈アナ



フジテレビの番組が国際的に高い評価をいただきました！

2013年に放送（公開）されたフジテレビ制作の番組・映画6作品が
国際的なメディアコンクール『ニューヨーク・フェスティバル』で過去最多受賞の快挙
東日本大震災ドキュメンタリーほか、社会／時事問題を深く追求した作品が国際的にも評価されました。

- 金賞 「ザ・ノンフィクション 特殊清掃人の結婚 ～“孤独死”が教えてくれたこと」 2013年1月20日放送
- 銀賞 「わ・す・れ・な・い 伝え継ぐ映像記録2013」 2013年3月10日放送
- 銀賞 映画「遺体 明日への十日間」
- 銀賞 映画「ラーメンより大切なもの ～東池袋大勝軒50年の秘密」
- 入選 ドラマ「最高の離婚」
- 入選 「ザ・ノンフィクション わすれない ～明日の君に逢いたい 2013夏～」 2013年9月1日放送

2014年4月8日ラスベガスにて 受賞式が行われました。

家族みんなで楽しめる番組を放送！

● サザエさん放送45周年記念『サザエさんウイーク』

カスペ「サザエさんの秘密徹底説明SP」 2013年11月26日（火）放送

45年間で放送した約7000話を徹底調査！磯野家の家電やファッションの変化、
レアな登場人物を扱い、また、今まで封印してきた大阪万博やハワイ旅行、
卵割り機のエピソードなどこの日限りの秘蔵映像を放送。
また、世代を超えて誰もが見ていたアニメ「サザエさん」の名シーンも放送しました。

ドラマ「長谷川町子物語」 2013年11月29日（金）放送

「サザエさん」生みの親、原作者長谷川町子の生涯を描いたドラマ。
戦後物がなく、女性の仕事の幅が少なかった時代に、
女性漫画家のパイオニアとして日本人の笑顔を作り出していった長谷川町子。
どのように育ち、サザエさんはどうやって生まれたかをわかりやすく紹介しました。

「サザエさん アニメ&ドラマで2時間半スペシャル」 2013年12月1日（日）放送

「サザエさん」がギネス世界記録™に認定されたのを記念して、磯野家一家が大縄跳びの記録に挑戦する話など3本のドラマ
と3本のアニメで構成。また、1つのストーリーの前半をアニメ、後半をドラマで描く物語もあり、「サザエさん」の魅力が
たっぷりつまったスペシャル番組を放送し家族で楽しんでいただきました。

（※ギネス世界記録™はギネスワールドレコーズリミテッドの登録商標です。）

● 開局55周年特別番組「スペシャルドラマ ちびまる子ちゃん」



開局55周年特番として、国民的アニメの一つ「ちびまる子ちゃん」の実写版ドラマを放送し
ました。今回は、原作の中でも選りすぐりの面白い話とドラマオリジナルのほろっと泣ける
ストーリーの計4本を放送（「まる子、おじいちゃんを祝う」「まる子、席替えをする」
「まる子、納豆を食べよう」「まる子とたまちゃん、風船の手紙を拾う」の4本）。
「ちびまる子ちゃん」は昭和が舞台ですが、現代に通じるお話もたくさんあり、子どもから
大人まで家族揃って楽しめる内容をお茶の間に届けました。

番組による社会貢献 ～スポーツ・ドラマ・情報番組をつうじた取り組み～

● 「春の高校バレー」

2014年1月5日～12日開催



「全国高等学校バレーボール選手権大会」として行われる本大会を、日本バレーボール協会、全国高等学校体育連盟と共に主催し、全試合をテレビ中継し全国に向けて放送しました。第66回を迎え国内におけるバレーボールの普及発展に大きな影響を与えると共に、全国の高校生バレーボール及び関係者はもとより、スポーツファンに大きな夢と感動を与えました。また、バレーボールの普及を通じて、全国の青少年の健康増進と情操教育の場を提供しました。

● 「スワローズ キッズアカデミー」

毎週日曜5:40放送



野球界そしてプロ野球に憧れる少年たちをサポートしました。スワローズの選手たちが野球技術のワンポイントレッスンなど講師役を務めたり、トレーニング方法や食生活も指導するなど、野球少年たちの健やかな成長に貢献しました。

● 「カレッジ すぽると！」

月一回放送 CSでも放送



テレビ界初の“大学スポーツ専門番組”として、メジャースポーツ、マイナースポーツに関わらず、学業と両立し精一杯競技に取り組む大学生アスリートを応援しました。また同世代の共感を創出することで次世代を担う青少年のスポーツを通じた健やかな成長に寄与しました。

● ウインターカップ2013

2013年12月23日～29日



「第44回全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会」として行われ、夏のインターハイ（高等学校選手権大会）と並ぶ高校バスケットの冬の祭典を放送しました。全国の高校生バスケットボール及び関係者はもとより、スポーツファンに大きな夢と感動を提供できました。また、将来的にバスケットボールが更に普及する施策を立案し、全国の青少年の健康増進と情操教育の機会拡大に貢献しました。

● ドラマ「SUMMER NUDE」

2013年7月～9月放送

過去の恋を胸に抱えながらも、再スタートしようとする男女3人の三角関係を描くラブストーリー。印象的なシーンで使用されていた看板は、南房総市白浜町にある磯笛公園内に骨組みを設置し撮影の度に盤面を貼っていましたが、ロケのない日にも多くの人が訪れて南房総市の新名所に。その為、放送終了後も市民から看板を惜しむ声があがり、看板を残すことが決定。ロケ地となっていた磯笛公園は強風のため「道の駅ちくちく潮風王国」に展示されることになりました。同時に、南房総市観光協会の協力を経て磯笛公園の看板跡地には、ドラマのロケマップが設置、そこには「道の駅ちくちく潮風王国」の案内も掲載され南房総市の観光を盛り上げる役割を担いました。

● ドラマ「海の上の診療所」

2013年10月～12月放送

瀬戸内海に実在する“海渡る病院船・済生丸”をモチーフに、船上で共同生活をしながら、瀬戸内海の離島を巡る病院船の医師や看護師たちの物語を訪れる島々にまつわるエピソードとともに描いたヒューマンラブストーリー。瀬戸内海にある大小あわせて700ほどの島々の多くは無医島で救急患者が発生しても、そこに頼るべき医師はいないという問題を解決すべく約50年前から離島を巡る病院船『済生丸』の存在や瀬戸内海の島々にまつわるエピソードを世の中に伝えました。

● ドラマ「僕のいた時間」

2014年1月～3月放送

生きる目的を漠然としか考えていなかった主人公の若者が、ALS（筋萎縮性側索硬化症）という難病に侵され、自分の余命がわずかだと知り、残された人生を模索していくという物語。命の大切さとは？その時、大切な人とどう向き合うのか？生きるとは？という問題を投げかけました。また、一般社団法人『日本ALS協会』の協力のもとにドラマ制作を行い、ALSという難病について知るきっかけをつくりました。

● 「とくダネ！」医療プロジェクト

2013年6月17～19日放送

医療の常識を疑え

～院外薬局で3割増しの薬代・生活保護者を困る医者モラル崩壊・患者のモラル崩壊～

医療ジャーナリスト伊藤隼也氏と共に医療問題を追う「医療プロジェクト」を2003年から

継続的に放送しています。今回は救急車を気軽に呼びつける“患者”のモラル崩壊の現実等を伝えました。



イベントによる社会貢献 ～数々のイベントをつうじて楽しい！感動！を提供～

エンターテインメント Entertainment



大人気だった「ミストマン」

●『お台場合衆国2013』 2013年7月13日～9月1日

2013年夏、今年も夏のイベント『お台場合衆国』を本社屋周辺で開催。

「楽しくなければお台場じゃない！冒険しなけりゃ夏じゃない！」をテーマに、大胆なコンセプトチェンジにチャレンジしました。

また、昨年に引き続き震災復興や景気回復を応援！

お台場の笑顔からニッポンをもっと元気にしたい！という思いで開催しました。



「震災を忘れない」という思いのもと「みちのく合衆国×東北魂」ブースを設けました。東北出身の芸人が笑いで日本を元気にする「東北魂TV」番組ブースや、「東北魂」グッズ、被災3県の名産品を販売し、売り上げの一部を「東北魂 義援金」を通じて3県へ寄付致しました。

※イベントの一環として「みちのくからつながろう。未来（あした）への道 1000km縦断リレーRUN&RIDE TO TOKYO 2013」を開催。

7月25日に青森の八戸市を出発した参加ランナーは、岩手、宮城、福島、茨城、千葉の各都市をリレー形式で走破し、8月7日にお台場にゴール。

各地でのRUNの模様を、各地の特産品の紹介をまじえて「スーパーニュース」などの情報番組でも放送し、東北復興支援を行いました。

家族にやさしい合衆国！

連日過酷な猛暑の中でも「家族にやさしい合衆国」でありたいと、授乳、おむつ替えができる「Baby's ステーション」を今回も常設。お子様連れのご家族に喜んで頂きました。

「ミストマン」による熱中症対策

猛暑の中、熱中症から守るため「ミストマン」が登場。冷たいミスト「イケメン水」とさわやかな笑顔を振りまきました。8人のイケメン軍団ミストマン8が全51日間、18キロもあるタンクを担ぎ場内を回りました。その爽やかな笑顔からミストマン8は大人気となり、結果来場者の心を癒すと同時に、救護室の利用者の削減につながりました。

搭乗型移動ロボット・セグウェイでお客様をご案内！

お客様のお問い合わせや混雑状況、楽しみ方などを搭乗型移動ロボット「セグウェイ」に乗ったインフォメーションガールが実証実験として案内実施しました。お台場地域の未来像、新たな移動手段・コミュニケーションツールについて考察しました。

先端技術ロボットを実働展示も！

恐竜型ロボットやソフトクリーム製造ロボットなど、先端技術ロボットを実働展示しました。テクノロジー、最先端技術などを遊びに来た未来を担う子どもたちに身近に感じ、触れてもらうきっかけとなりました。

●『GLITTER（グリッター）8』～キラキラヒカルフジテレビ～

フジテレビ社屋の壁面全体を使って表現する、かつてない規模のイルミネーションでお台場に新たな光のランドマークを提供。社屋の窓に設置したLED照明の色や明滅をコントロールし、人気番組楽曲などと連動して様々なショーを展開し、お台場を訪れる人を魅了しました。



●ダイハツ『オーヴォ』日本公演

カナダを拠点とする、サーカス集団シルク・ドゥ・ソレイユによるツアーショー。

「オーヴォ」はこれまでで最大のセットを使用した演目や、最も美しい空中曲芸と評される演目など、かつてないスケールと芸術性を融合させた圧巻のアクロバットの数々で、草木の下での生き物たちの世界をえがいた「いのちのものがたり」です。

小さくもたくましい「いのち」が生き生きと躍動するその姿は、身近な自然への愛、生きることの喜びを思い出させてくれます。文化芸術を通じての国際文化交流にも貢献しました。



Photos : OSA Images Costumes : Liz Vandal © 2009 Cirque du Soleil © 2013 Fuji Television

音楽 Music

● ベルリンフィルハーモニー管弦楽団2013来日公演

サイモン・ラトル指揮によるベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の2年ぶり5度目の来日公演。名古屋、大阪、西宮、東京、川崎にて開催し、文化芸術を通じての国際交流に貢献しました。音楽を学ぶ学生を招待する「公開リハーサル」を11月18日に実施し、音楽を学ぶ学生の教育支援を継続して行っています。

● プラシド・ドミンゴ コンサート・イン・ジャパン

今回の世界文化賞も受賞した、世界を代表するテノール歌手、プラシド・ドミンゴのコンサート。文化芸術を通じての国際文化交流に貢献しました。

● マイケル・ジャクソン ザ・イモータル ワールドツアー

シルク・ドゥ・ソレイユによる北米、ヨーロッパを席卷したマイケル・ジャクソン・トリビュートショー。さいたま、横浜、名古屋、福岡、大阪の各地にて公演し、文化芸術を通じての国際交流に貢献しました。

● ドラムストラック2013

南アフリカのドラムパフォーマンスの6度目の来日公演。客席にアフリカンドラムが置かれ、観客がキャストとともにドラムを叩くという参加型ステージ。文化芸術を通じての国際文化交流に貢献しました。

科学 Science

● グレートジャーニー 人類の旅 ～この星に、生き残るための物語～

ドキュメンタリー「グレートジャーニー」をベースに人類拡散の歴史と各地でたくましく暮らす人間の姿、そこから考えるこれからの人々の暮らしを史学・民俗学・人類学などの学問の境界線を越えた多角的な内容で展開し、科学的な啓発を行いました。

● 『ウォーキング・ウィズ・ダイナソー』ライブアリーナツアー イン ジャパン

2010年に実施し37万人を動員した実物大恐竜が登場するアリーナショーの再演。生物の進化とその多様性をはじめとする科学的な啓発を行いました。

● サンダーバード博 ～世紀の特撮が描くボクらの未来～

イギリスで制作されたTV人形劇「サンダーバード」をテーマとする展覧会。劇中のシーンとリンクした体験コーナーや、最先端の科学技術の紹介と劇中で描かれた未来像との比較などを展開し、科学的な啓発を行いました。

伝統芸能 Traditional Arts

● 第21回 靖国神社「奉納夜桜能」

東京最古の木造能楽堂で、重要無形文化財保持者が集う日本の古典芸能の最高峰のイベント。日本の伝統文芸の普及と継承を引き続き支援しました。

● 錦秋特別公演 芯2013

中村勘九郎、七之助兄弟による歌舞伎、三味線、和太鼓のコラボ公演。日本の伝統芸能の普及と継承を支援しました。

● TAO 20周年記念舞台 DRUM ROCK ～十七人のサムライ～

国内外で人気のドラム・パフォーマンス集団の20周年記念公演。日本の伝統芸能の普及と継承を支援しました。

スポーツ Sports

● 第5回パナソニックキッズスクールCUP ロープジャンプ小学生No.1決定戦



パナソニック株式会社の「子供がかがやけば、未来がかがやく。」という理念のもとに行われているCSR活動を運営実施しました。北海道、東北、関東・甲信越、東海・北陸、近畿、中国、四国、九州、沖縄の9地区で小学生による大なわとびの大会を開催し、各地区の代表チームによる全国決勝大会を東京大田区総合体育館で開催しました。この模様は、「めざましテレビ」でフォローしながら4月13日に全国ネットで放送しました。（この企画は今回で終了。）

● バレーボール コーチング・キャラバン（バボキャラ）



日本バレーボール協会の小中学生・競技人口拡大事業「JVAゴールドプラン」とのコラボ企画として、昨年度の被災3県（岩手、宮城、福島）に続き、今年度は被災3県のほか東京都、大阪府、長崎県でも実施しました。系列局の全面協力のもと、特別コーチが赴き地元の小中高生に対して、バレーボールを通じて励ましました。

● 日本サッカー協会『こころのプロジェクト』

JFA『こころのプロジェクト』とは、サッカー日本代表選手や現役Jリーガー、なでしこリーグの選手や競技の垣根を越えた他競技のトップアスリートたちが、「夢先生」として学校の授業を受け持ち、夢や目標を持つことの素晴らしさ、それに向かって努力することの大切さ、フェアプレーや助け合いの精神を、子どもたちと語り合い、触れ合いながら伝えていく活動です。この活動の趣旨に協賛し、支援しました。

● 全日本リトルリーグ野球協会への協賛・支援

今年度もサンケイスポーツ、産経新聞と共にリトルリーグ委員会を応援しました。同委員会は、野球という種目を通じて男女問わず子供たちのスポーツ環境を整備する事、スポーツを通じ子どもたちの健全なコミュニティ作りを支援する事、そして海外チームとの試合を通じて国際的友好の輪を広げる事、という理念の下に運営されており、40年以上にわたって支援を続けています。

● Art on Ice 2013 in JAPAN

歴代のフィギュアスケート選手権のチャンピオンやオリンピック優勝選手たちが、ミュージシャンの生歌・生演奏に合わせて競技とは違った自由な表現でパフォーマンスを行うアイスショー。スポーツ・文化芸術を通じての国際文化交流に貢献しました。

● 日本大相撲トーナメント第38回大会

同部屋同士の対戦や、相撲普及講座の開催など本場所とは異なる相撲の楽しみ方を提供。国技である大相撲のさらなる普及・発展に貢献しました。

● JBVツアー第4戦 ペボニアカップ

今年度もビーチバレーツアーの第4戦お台場大会を開催しました。東京23区内でのビーチバレー大会開催は、ビーチバレーの競技振興を図るだけでなく、台場の地域活性化、ビーチ文化の向上に大きく寄与しました。

● JR東日本と連携した地域活性化（館山市）の取り組み

千葉県・館山市の地域活性化に貢献すべくJR東日本からの依頼を受け、6月開催の「館山わかしおトライアスロン」、1月開催の「館山若潮マラソン」の大会のブームアップ、PR、イベント運営協力を行いました。また大会事前のトライアスロン・マラソン合宿を同地で行うなど、地方行政と提携して地域活性化に協力しました。

字幕・解説放送等 ～より多くの方にテレビを楽しんでもらうために～

● 字幕放送

字幕放送とは、主に聴覚障がい者や高齢者などテレビの音が聞こえにくくなった方々にテレビ番組を楽しんでいただくために、テレビの音声を文字にして画面に表示する放送のことです。ドラマのセリフやバラエティ番組のトーク部分はもちろんのこと、「パトカーのサイレン音」や「ドアをたたく音」などを字幕（文字）で表示し、番組内容を十分ご理解いただけるようにしています。テレビ視聴以外にも、ワンセグ受信機能付きの携帯電話でも字幕放送を見ることが可能なため、利用者が増加しています。7時～24時のVTR番組とストレートニュースのほぼすべての番組に字幕を付与。生放送番組にも積極的に字幕を付与し、ソチ五輪中継などにも字幕をつけました。また、民放でいち早く取り組みを開始したCMへの字幕付与も継続的にを行っています。

▶ 詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.fujitv.co.jp/company/action/jimaku.html>

字幕放送を見るには

テレビ本体の設定メニューの中から字幕＜あり・なし or ON・OFF＞の項目を選んで字幕あり（ON）に設定すれば、字幕放送を見ることができます。またテレビ本体から設定しなくても、リモコンの字幕ボタンを押すだけで、簡単に字幕放送に切り替えられます。特別な加入手続きや申し込みの必要はなく、視聴料もありません。



生字幕をつけている様子

● 解説放送

「解説放送」は、主に目の不自由な方々にテレビを楽しんでいただくために副音声を使って場面の解説を放送するものです。音声だけでは伝えきれないト書き的な状況描写、例えば場面設定、出演者のアクションなどをナレーターがその状況を補完解説してお伝えしています。

残念ながら現在「解説放送」を付与している番組は限られていますが、金曜プレステージなどの単発ドラマや「ライオンのごきげんよう」などのレギュラーバラエティ番組への付与を継続的にを行っています。解説放送新聞のテレビ欄にのマークがついている番組が対応番組です。

また解説放送対応番組には冒頭に解説放送という告知スーパーが表示されています。

▶ 詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www.fujitv.co.jp/company/action/kaisetsu.html>

● 手話放送

「テレビ寺子屋」（毎週日曜5:10～5:40放送）にて手話放送を行っています。

● 字幕放送推進

字幕放送をリアルタイムでフジテレビの番組ホームページ上に表示させるシステムを開発し、2012年7月1日から本格運用、現在も継続しています。

● 映像コンテンツにおける字幕

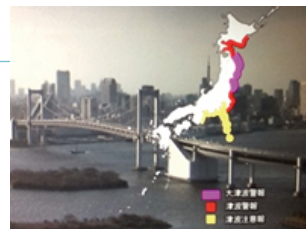
ドラマDVDに関しては聴覚障がい者向けに字幕対応を行っています。

● CM字幕送出対応

CM字幕送出対応に関して、トライアルを実行しました。より文字数が多く表示できるARIB字幕にも対応しました。

● カラーユニバーサルデザインを採用した見やすい画面

2011年夏に津波警報の色を在京テレビ各局で統一しました。色弱者の方々にも色の区別ができるように配慮したデザインとし、また、同じ時期に導入した震度地図画面など地震津波関連の各画面も色弱者の方々にも配慮したカラーユニバーサルデザインを採用、継続しています。またカラーユニバーサルデザインに配慮したセットづくりや、タイトルデザインを心がけています。



最先端の放送技術による取り組み

～信頼性と質の高い放送を実現するテレビ技術を通して放送文化の発展に貢献～

● 4Kやマルチメディア放送など新しい放送技術への取り組み

より利便性が高い次世代放送のための新技術の開発・展示を通して、今後の放送文化の発展をめざす取り組みを行いました。



よんぱちぶろじゅくと

高精細度テレビジョン方式（UHDTV）の4K8Kの技術検証や社内の啓発活動のために、技術プロジェクトを立ち上げて取り組みました。

Hybridcastの取り組み

放送と通信が連携したHybridcastに関して、InterBEEやCEATECなどの技術展示で具体的なサービス例を紹介しました。

マルチメディア放送方式の海外への普及活動

マルチメディア放送方式であるISDB-Tmmの方式提案者として、南米、東南アジア、アフリカ等への普及活動を促進することによって、国際社会への貢献に寄与しています。

● 電波の有効利用に関する取り組み

ロードレース中継で使用している700MHz帯FPU（放送局の自営無線局）と700MHz帯のA型ワイヤレスマイクは国策により別の周波数帯に移行することになっています。フジテレビは早期に周波数移行を完了させる方針を取っており、日本の放送局の中で先行して周波数移行に取り組むことによって、スマートフォンやタブレット端末の普及により周波数がひっ迫していく中、限りある周波数の有効利用に貢献しています。

● 番組制作現場での技術開発

番組制作現場において、技術面から環境や視聴者に優しい放送の実現に寄与しました。具体的には、CGを用いた照明シミュレーションの仕組みの導入で、実際の照明をセッティングして明かりをつくる手順を省くことによって、時間、電力、労力を節約するとともに、安全性の向上や統一感のある照明効果を実現しました。

また、2012年に制定された民放連技術規準T032「テレビ放送における音声レベル運用規準」に基づいたラウドネス運用を行い、CMを含めた番組間、チャンネル間の音量感のばらつきをなくし、視聴者に優しい放送を実現しました。

● デジタル放送の普及・促進

IPTVフォーラム、デジタル放送推進協会など、様々な会合に参加して、デジタルテレビ放送の普及・促進に努めました。デジタル放送の普及は、より便利で豊かなテレビの楽しみ方を広げる、電波の有効利用を実現する、安定したライフラインを普及させることに寄与しています。

● 放送技術標準化活動への参加

国内や国際社会で、新しい技術の導入や電波の有効利用を実現するために、放送技術標準化の活動に参加しました。電波産業会（ARIB）、日本民間放送連盟、デジタル放送推進協会（Dpa）、日本ITU協会、IPTVフォーラム、NexTVフォーラム、AES日本支部賛助会、ITU-R等の国内外の機関に参加し、フジテレビの技術が培ってきた放送技術に関する知見を生かして、放送技術の標準化に寄与しています。

PICK UP

FNSテクニカルフェア「あんたが大賞」

フジテレビ技術局・技術開発局ではFNS系列で働く技術者の意欲向上と技術的なステップアップを支援することにより系列全体の技術力のパワーアップにつながる環境を創り出すことを目的に、毎年「FNSテクニカルフェア “あんたが大賞”」を実施しており、今年は系列局19社から27件の応募がありました。

今年度の「あんたが大賞」金賞に選ばれたのは、高知さんさんテレビ「防災対策 やるならいまでしょ！～安価でF-SAT受信に挑戦～」。安価に通信衛星の受信設備のバックアップを構築するアイデアで、大規模災害時の放送維持に大きく寄与することが期待できる技術です。

受賞した技術以外にも、日々の日常業務の中でFNS系列技術が知恵を絞って課題を解決したものばかりで、それぞれが放送技術の発展に寄与するものとなっています。



国際交流

●『ワールド・ミーティング』などによる国際交流



毎月1回国際局では『ワールド・ミーティング』と題して、駐日大使館や関係機関からゲストを社内に迎え、その国の旬な話題を中心に意見交換を行っています。

さらに、過去の『ワールド・ミーティング』に参加したゲストの方々などを招いた『ワールド・ミーティング・パーティー』を年に1回開催しています。今年3月に開催したパーティーでは、メディア取材も入り、フジテレビの国際交流・活動が紹介されました。

フジテレビと各国大使館・諸機関との関係は年々広がっており、番組制作やイベントなどフジテレビの様々な業務に大きく貢献しています。

● 海外広報・お台場観光誘致

フジテレビの英語・中国語の公式HPを全面リニューアル、さらにFacebookとYoutubeも活用し、企業情報、CSR活動の他、番組、映画、イベントなどのコンテンツ、日本文化の最新情報を常時発信しました。お台場観光誘致を目的とした夏の社屋イベント『お台場合衆国』の最新情報も発信し、地域活性化に貢献。さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定に伴い、東京ベイエリア紹介動画を制作し配信。海外メディアの取材にも対応し、お台場地域のPRを行いました。

● 震災などをテーマとした番組を海外テレビ祭に出品

フジテレビが放送した番組を海外のテレビ祭に多数出品し、震災関連番組やその他ドラマ、バラエティ、ドキュメンタリーなど日本のコンテンツを幅広く海外に紹介しました。ビーボディ賞、国際エミー賞、バンフ・ワールド・メディア祭、モンテカルロテレビ祭、アジア・テレビジョン・アワード他。

● 国際エミー賞セミファイナルの審査会実施

米国テレビ界のアカデミー賞と呼ばれている「エミー賞」の国際版「国際エミー賞」セミファイナルの審査会をフジテレビが東京・台場で開催しホストした。世界で活躍する多数のテレビ・映像関係者を招聘し、コンテンツを通じた国際文化交流とテレビ業界の発展に貢献しました。

● 海外で日本語放送を提供

海外在留邦人の「日本の情報が得られない」と強い要望を受け、1982年に社会貢献を目的としてスタート。

「めざましテレビ」「スピーク」「スーパーニュース」をもとにニューヨークのスタジオで独自の情報番組を制作し、最新の日本情報を伝えています。ハワイでは日本に戻れない日系高齢者の心の拠り所でもあり高い評価を得ています。フジテレビが大半の運営費用を負担し、ほぼ無償に近い状態でコンテンツを提供する社会貢献事業。NHKに先駆けて民放では唯一の実施事業者。

● 「アイアンシェフ」アメリカ大使館及び国務省との連携

「アイアンシェフSP〜料理W杯 日本代表VSアメリカ代表」において、日本とアメリカの食文化を活性化するため、アメリカ大使館及び国務省と協力。ジョン・ルース前駐日米国大使の出演や出演候補シェフの情報提供、国務省内の撮影協力、またテーマ食材の【牛肉】に「アンガスビーフ」を提供してもらうなどのコラボレーションを行いました。

● ベトナムテレビと番組を共同制作

2013年11月24日放送

日本とベトナムの友好条約40周年を記念したフジテレビとベトナムテレビの共同制作番組「ザ・ノンフィクション・恋するバイオリン」を放送。ベトナム国立交響楽団を素材に、指揮者の本名徹次さんとベトナム人楽団員の交流、そして日本公演への思いや意気込みを通して日越の友好を描き、国際交流に貢献しました。

その他

蔵書朗読録音ボランティア

CSR推進プロジェクト



2009年秋より「日本点字図書館」にて、アナウンサーたちが蔵書朗読録音ボランティア活動を継続して行っています。点字図書館では、視覚障がい者にも読書に親しんでもらうため書籍を音訳し録音、インターネットによる配信を行っています。フジテレビアナウンサーがこれまでに録音を完了した蔵書は24冊。

PICK UP

『フジボッド文庫』 寄贈 最近は海外からのお申込みも！

『フジボッド文庫』のコンテンツ、アナウンサーが朗読する日本の名作文学のCDを、盲人図書館、盲学校、老人福祉施設、小学校、児童館などの団体に寄贈しています。



今年度は32件のお申込みがあり、これまでの合計は90件になりました。最近は海外の日本人学校などからの申し込みが増えており、韓国・フランス・ドイツ・ニュージーランドにも寄贈しました。

視覚障がいのある方に配慮した番組作りのためにワークショップを開催

CSR推進プロジェクト



10月31日、社内で勉強会《見ないで遊ぶワークショップ》を開催しました。これは『虹とねいろのプロジェクト』が行っているワークショップで、「視覚障がいを持つ方々が普段どのようにテレビや映画を楽しんでいるのか」「テレビの解説放送や映画の音声ガイドはわかりやすくできているのか」などを実際に疑似体験しながら学ぶものです。視覚障がいをもつ方々にテレビをもっと楽しんでいただくにはどうしたらいいか、多くの気づきを与えてくれました。テレビの解説放送や音声ガイドに生かしていきます。

オリンピック開催地を海から視察

CSR推進プロジェクト



2020年五輪の主要開催地である臨海副都心・台場に本社を構えるフジテレビ。6年後に向けて自分たちに何ができるか、海とビーチが目の前に広がるお台場にしかない魅力をさらに広げていくヒントをつかむために、お台場・臨海地域を海から見て回ろうと、東京港クルージングを企画しました。2014年3月13日、あいにくの雨模様でしたが、この日のため予約していた東京都所有の視察船『新東京丸』に36名のメンバーで乗り込み、我々の生活に深く関わる東京港の役割を勉強しながら、五輪会場となるエリアを海からじっくり見てきました。

地域の消防団員の派遣



「勤務地消防団」とは、台場地区、芝消防署管内にある企業の職員が加入している組織で、消防団の活動計画により訓練・イベント等に参加したり、火災・大規模災害時には、地域住民の生命や財産を守るために活動します。フジテレビは、2008年6月から、勤務地消防団に社員を派遣しており、現在3人が加入し地域社会に貢献しました。

お台場学園港陽中学校 職場訪問・職場体験

地域への貢献の一環として職場訪問・職場体験実習・社内見学などへの協力を行いました。

社員の健康と社会貢献

がん検診受診率アップ 企業アクションプラン に参加

「がん検診受診率50%を3年以内に目指す」という厚生労働省の委託事業である国家プロジェクトに参加。早期発見・早期治療による人材損失の回避と経営基盤の強化を目指し推進パートナーとして検診受診を促進しています。

歯の妖精 「Tooth Fairy」 プロジェクトに参加

年金日本財団が日本歯科医師会と協同して行っているプロジェクト。歯科治療で取り外した撤去金属や入れ歯を寄付し、その中に含まれる金、銀などをリサイクルした資金で貧困や重い病気と闘う子どもたちを支援しています。

献血の実施

血液が不足する冬季に日本赤十字社に協力して、社内で献血活動を実施しています。2013年度は42人が献血しました。

フジ厚生年金基金の運用で SRIに投資・PRIに署名して います

フジ厚生年金基金で、「SRI（社会的責任投資）ファンド」での運用を実施。また、国連環境計画・金融イニシアチブが提唱する「責任投資原則（PRI）」に署名し、投資活動を通じて地球環境や社会により良い影響を及ぼすことで持続可能な社会の実現に貢献していきます。



● 地球温暖化防止のための取り組み

フジテレビでは、地球温暖化防止のための温室効果ガス排出量の削減に計画的に取り組んでおり、東京都の環境問題対策に関する指針「総量削減義務と排出量取引制度」に沿って、2010年度から2014年度にわたる5ヵ年計画を立て、期間内に温室効果ガス排出量6%削減（2002～2004年度実績の平均値対比）義務を達成するため、省エネ機器の導入やクールビズ、ウォームビズなどの対策を実施しています。またカーボン・ディスクロージャー・プロジェクト（イギリスの公認慈善事業を行っている非営利団体で、世界中の企業から気候変動への対応を質問状にて情報を収集し、必要とする機関投資家へ情報を開示している）に対して、当社の炭素管理を情報開示するとともに、気候変動対策に取り組んでいます。

（2010年～）

2012年度の結果として、フジテレビ本社ビルの二酸化炭素CO₂の排出量は、19,509トンで、6%の削減義務を大きくクリアして21%削減を達成しました。（2011年度は24%削減）



地球環境改善のための 3本の矢キャンペーンプロジェクト

1. ゴミ分別
2. 封筒、手提げ袋、文房具用品等の使いまわし
3. スイッチオフによって電気の使用量を減らしCO₂を削減

3つを柱とした「地球環境改善のための3本の矢キャンペーン」で社内の『3R』を推進しています。

※ 3Rとは、
 REDUCE（リデュース）：発生抑制
 REUSE（リユース）：再利用
 RECYCLE（リサイクル）：再生

のこと。

全社的な環境への取り組み

● 全社的にやっていること

1. リサイクルのためのゴミ分別キャンペーン運動の展開

『ゴミ分別キャンペーン』として、社内の分別率状況と分別率向上のための注意点を毎週社内にお知らせすることにより、ゴミ分別率100%を目指しました。

※リサイクル率100%の循環型社会形成を目指して、分別したゴミを各種リサイクル処理施設に搬出しました。

オフィスでゴミの **11** 分別を行っています。



リサイクル例

トイレットペーパー、アルミ、固形燃料・建築用スラグ、畳の芯などに生まれ変わっています。



2. 使いまわしキャンペーン・リデュース&リユース

2007年1月～『使いまわしキャンペーン』を社内各部署のゴミ分別委員とCSR推進室にて実施。

封筒・手提げ袋は一度使った物を再使用し、両面コピー等によるOA用紙削減も行っています。

更に、パームファイル、文房具も追加し、省資源・循環型社会形成、及び廃棄物削減を目指しました。

3. CO₂削減キャンペーン

2008年4月～『CO₂削減キャンペーン』として、会議室・共用部の照明スイッチオフ、帰宅時パソコン・モニターのスイッチオフを徹底、電気使用の削減量をCO₂排出量に換算して社内には知らせています。

節電対応（照明のLED化）温室効果ガス削減と同時に、震災後の節電も含め、照明のLED化を計画的に行いました。（2011年～）2013年度は電球タイプをLED化したことで1台あたり75%消費電力を削減し、水銀灯タイプをLED化したことで1台あたり47%消費電力削減を行ないました。

ペーパーレスへの取り組み

● 「めざましテレビ」 ペーパーレス会議



「めざましテレビ」では2013年7月から本格的に日々の会議をペーパーレス化する取り組みをはじめました。デイリーの編集会議、企画会議に加え月に1度全体会議を行っており、配られる資料を合計すると、コピー紙の量は月におよそ3万枚でした。それらの紙資料をなくし、すべてタブレット上で内容を見ながら進めていくという新しいスタイルに。WiFiでインターネットにアクセスすることも可能なので、会議中サイトのURLから詳細を見ることも可能。今では、他の会議にもこの形を採用し、トータルで月に約2万枚程度の紙の削減、まだコストダウンにもつながっています。

● 共用会議室に大画面テレビとイントラPCを設置

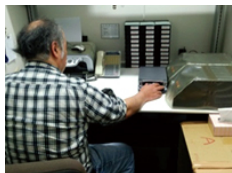
共用会議室3室にイントラPCを設置し、大画面テレビでPCを利用できるようにしました。ユーザーがログインすることで共有ドライブ（Sドライブ）にアクセスすることが可能になっており、デスクに戻らずにインターネット検索が行えたり、文書資料が表示できるなど紙資料を大幅に削減。社内におけるペーパーレスを推進すると同時に、利便性もアップしました。

● 広報活動におけるペーパーレスへの取り組み

新写真システム導入により、アーカイブと連動して社内での紙のやりとりを減らし、さらに外部記者との写真の選択、受け渡しまでデータで行うようにしました。また、広報資料についてもデータでの送付を基本としました。過去の番宣ポスターなどもデータで保管し紙の削減を行っています。

リサイクル・省資源の取り組み

● 放送で使用したVTR・HDVの再利用・リサイクル



「めざにゅ〜」「めざましテレビ」「とくダネ!」「ノンストップ!」などの情報番組を制作する情報制作局では、資源の有効活用とコスト削減のため、2010年からVTRを再利用するプロジェクトを開始しました。再利用テープを使用することで、新規テープを使った場合に比べて、今年は金額にして3,000万円以上のコスト削減、1万本以上のテープの資源削減となりました。



● 廃棄テープのリサイクル

指定回数使用したテープを破棄する際には、データをすべて消磁し、手作業で分解、部品ごとに仕分けしてリサイクルしています。この作業は、2000年10月からメーカーとノウハウを共有しながら行っており、磁気テープは「畳の芯」などになり、プラスチック樹脂は「自販機の取り出しカバー」や「電線のポビ」ンなどになって、再び私たちの生活に役立っています。

● テープレス編集システムで省資源を促進

報道局は2010年11月から「ファイル化ノンリニア編集システム」を開始。取材、収録、編集、送出、アーカイブをファイルベース化することでテープレス化、メディアのリサイクルを促進しています。



● 省エネに適したパソコンの配備

従来よりもエネルギー消費効率の良いパソコン（国際エネルギースタープログラム対応）を配備しました。プリンターのトナーについても、リサイクル品を使用。

● スタジオセットなどの廃材をめぐる環境への取り組み

①使わなくなったセットを保管し、それをリスト化して共有することで、新規の発注を減らし廃材の量をへらしています。②これまで大道具4社が各々処理していた大道具廃材をフジテレビの美術制作局が一括処理することにより、排出事業者としての責任を全うできると同時に、経費削減にもつながっています。③釘などの鉄廃材を「シズ」（セットなどを固定させるおもり=画像）として再利用しています。



映画事業をつうじた取り組み

フジテレビの映画作品は、グリーン電力証書システムに参加し、映画制作にかかわる電力を購入しています。今年度は以下の映画制作にかかる電力のグリーン化を行いました。

対象作品	「真夏の方程式」	「カノジョは嘘を愛しすぎてる」
	「謎解きはディナーのあとで」	「土竜の唄」 「清須会議」
	「そして父になる」	「チーム・バチスタ FINAL ケルベロスの肖像」

グリーン電力とは？

風力、太陽光、バイオマス、マイクロ水力、地熱などで発電された電気、環境に負荷を与えない電力です。化石燃料（石油や石炭）など従来のエネルギーからの電力も、自然エネルギーからの電力も、電気として使うときには、同じものですが、自然エネルギーから作られた電力は、地球温暖化の原因であると言われている二酸化炭素を排出せず、安全で枯渇しないエネルギーです。

イベントによる環境への取り組み

● 社屋イベント『お台場合衆国2013』での環境活動

CSR推進プロジェクト

会場で、2007年から継続して、ゴミ箱周辺に「自サイクル」マークのサインを設置。来場者にゴミ分別への協力を訴えました。「自サイクル」とは、「環境への配慮は、社会のためであり地球のためであり、そしてなにより自分のため」という思いを込めたフジテレビのオリジナルサインです。



● ダイハツ『オーヴォ』日本公演における環境活動

会場内ゴミ分別の徹底（ゴミを回収し係員により分別徹底後収集車によりリサイクルへ）、カン・ペットボトルを潰し分別、ゴミの量を減らすゴミ減らし運動も併せて実施しています。

● 自転車ecoイベント GREAT EARTH 函館大沼ライド / 岩手雫石ライド / 東京ライド

「環境に優しい乗り物“自転車”に乗ってお台場に集まろう」という主旨のエコイベントを、今年度は函館大沼・岩手雫石・東京にて開催しました。自転車を利用することでのCO₂排出量の削減をアピールし、あわせて自転車運転のマナー向上を呼び掛けました。

● FUJI VELO FESTA in FUJISPEEDWAY（富士ヴェロフェスタ）

自然に優しい自転車事業の拡充を図るために、富士スピードウェイで自転車ロードレース『FUJI VELO FESTA in FUJISPEEDWAY』を開催しました。安全な運営により自転車文化の発展に寄与しました。

● 婦恋・万座ハイウェーヒルクライム

昨年度に続き山岳ロードを駆け上がる、自転車ヒルクライム大会を婦恋・万座ハイウェーで開催しました。大自然の中でのエコスポーツイベントで、人々の健康志向を高めると同時にウィンタースポーツがオフシーズンの地域活性化にも寄与しました。

● 立山アルペンヒルクライム2013

マイカー規制が敷かれ一般車輛が一切入れず厳格な自然保護の精神が貫かれている立山一帯で、先人たちが楽いてきた自然保護スピリットを全国、世界に広げるねらいで自転車ヒルクライム大会を開催しました。単なるサイクルイベントではなく、自然保護のためになる『21世紀型ゼロミッションサイクルイベント』を目指しています。（6月23日）

● お台場サイクルフェスティバル2013

昨年も開催した自転車の一大イベントを今年もお台場シンボルブルームナード公園特設コースで開催。自転車の交通上での正しい使い方も紹介・提案し「自転車と社会」の関わりをより良くするように努めました。（8月3～4日）

ゴミのないきれいなまちに…楽しく清掃活動

〈月2回〉有志による社屋周辺の清掃活動を継続しています！
2008年から、その他近隣企業からなる「臨海副都心まちづくり協議会」主催の清掃活動や美化活動にも積極的に参加しています。

CSR推進プロジェクト

● 社屋周辺清掃ボランティア活動



2008年からプロジェクトチームメンバーが中心となり、毎月第2・4月曜日の昼休みに社屋周辺の清掃ボランティア活動を行っています。継続的に実施しており、美しい街づくりに貢献しています。

● フジ・メディア・ホールディングス各社有志による台場周辺清掃ボランティア活動も実施（年3回）



フジテレビが声かけをしてフジ・メディア・ホールディングス各社とともに7・10・3月の3回、合同清掃ボランティア活動を実施。毎回、60人以上ものボランティアが集まり、トンゴとゴミ袋をもってフジテレビ社屋周辺の清掃活動を行いました。

社内イントラネットや動画などを通じて 環境活動への協力を呼びかけました！

ゴミ分別への協力を促すポスター



オリジナルキャラクター
リサイクルのリサちゃん♪

ゴミ分別に関するポスターを作成、また分別への理解を求めるビデオ動画を制作し、エレベーター内のモニター『えれび。』で流すなど、社内的なPRを行いました。

社内イントラトップページ「みんなのバナー」を活用した環境美化・清掃活動の推進



社内イントラネットのトップページにお知らせを掲載する「みんなのバナー」を活用して、昼休みの環境美化・清掃活動を推進。のべ1000人以上の社員にバナーをクリックをしてもらい、活動の内容が記されたリンク先のファイルを見てもらうことができました。

花と緑のあるまちづくりに貢献

● 「臨海副都心まちづくり協議会」の活動に参加

CSR推進プロジェクト



お台場を花のあるまちに…花の苗を植えました！

10月18日(金)～20日(日)の週末、『未来につながる花のまち』をテーマに、指定された苗を使って素敵な花壇を制作するコンテストが、フジテレビの本社近くのシンボルプロムナード公園内で行われました。

臨海副都心に本社を置く51事業体からなる「まちづくり協議会」・環境作業部会に所属するフジテレビからは5人が参加し、花壇を完成させました。



チューリップの球根を植えました！

2014年4月開催の『臨海副都心チューリップフェスティバル』に向け、1月29日「まちづくり協議会」の有志約150人が集まり（フジテレビからは12人）が、富山県砺波市産のチューリップの球根、400種3万3千株を植えました。お台場を訪れる皆さんに、一面に咲くチューリップで楽しんでもらえるよう心をこめて植えました。

● 東京湾に森をつくろう！…『海の森』植樹プロジェクトに参加

CSR推進プロジェクト



CSR推進プロジェクトメンバー有志ら12人が参加して、東京都が主催する『海の森』の植樹を行いました。

フジテレビのメンバーが参加するのは、2010年、2011年に続き3回目。およそ1時間ほどで6種90本を植樹しました。

※『海の森』プロジェクトとは、フジテレビ社屋に程近い東京湾に浮かぶ、ゴミと建設発生土で埋め立てられた中央防波堤内側埋立地およそ88haに樹を植え、48万本で美しい森に生まれ変わらせようというものです。

その他

環境省ライトダウンキャンペーンに参加しています。

● 地球温暖化防止への取組み「クールアース・デー」環境省ライトダウンキャンペーンに参加

環境省の呼びかけに応じてライトアップ施設の消灯（ライトダウン）に参加し、20時～22時の2時間イルミネーション、外構照明を消灯しました。（2003年～）

- ① 夏至の夜6月21日「ブラックイルミネーション」
- ② 7月7日「七夕ライトダウン」

● めざましSong Graffiti Live in 合衆国 ～クールアース・デー スペシャル～ CSで放送

3月から毎月1回開催されていた『めざましSong Graffiti Live』の集大成として地球への感謝、未来への願いをテーマに『めざましSong Graffiti Super Live ～クールアース・デー スペシャル～』をお台場合衆国特設ステージにて開催。環境問題の大切さを国民全体で再認識していくため、2008年の洞爺湖サミットが七夕の日開催されたことをきっかけとして毎年7月7日を「クールアース・デー」と定め、施設や事業所、家庭などで一斉に電気を消すライトダウンを呼び掛けるキャンペーンに合わせ「地球への感謝」、「未来への願い」をこめて行われました。さらに豪華アーティストがアンケートによって集められた1957年～2013年の名曲をオリジナルバージョンにアレンジして披露しました。（7月7日フジテレビNEXTで放送）

フジサンケイグループ各社とともに 行った取り組み

With FUJISANKEI COMMUNICATIONS GROUP

高松宮殿下記念世界文化賞

PRÆMIUM IMPERIALE

IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

第25回 高松宮殿下記念世界文化賞

～世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与～



2013年10月に第25回目の贈賞式が行われた「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人 日本美術協会（総裁 常陸宮殿下）により1988年に創設されました。フジテレビは同賞の趣旨に賛同し、賞の創設以来 社を挙げてサポートをしています。

長きにわたり総裁を務められた高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志にもとづいて、協会創立100周年を記念して創設された全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。

文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資することを確認し、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰します。賞は絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門、各部門年間1名を原則とし、受賞者には金メダルと賞金を授与。また、次世代を担う若手芸術家の活動、行動計画を援助し奨励することを目的に1997年、「若手芸術家奨励制度」を創設し、若手芸術家を育成援助している団体、または若手芸術家の団体・個人を対象に奨励金を授与しています。

▶ 公式ホームページ <http://www.praemiumimperiale.org/>



● 特別番組：第25回高松宮殿下記念世界文化賞を放送 2013年10月23日放送



世界文化賞の贈賞式に合わせて放送された特別番組。

式典の様子と受賞者の紹介を、視聴者にわかりやすい形で放送しました。さらに、25周年という大きな節目を迎えたことから、世界文化賞の歩みをBSフジで1時間の特番で放送し、世界文化賞の意義を伝えるとともに、文化・芸術への啓発につとめました。

第22回地球環境大賞

～産業の発展と地球環境の共生をめざして～

第22回
地球環境大賞
Since 1992



2013年4月に第22回の贈賞式が行われた「地球環境大賞」は、1992年フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、産業界を対象とする顕彰制度として、世界自然保護基金（WWF）ジャパン（名誉総裁・秋篠宮殿下）の特別協力を得て創設されました。今では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。フジテレビは、フジサンケイグループの中心的存在の一社としてこの「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に邁進しています。

▶ 公式ホームページ <http://www.fbi-award.jp/eco/>

● 特別番組：地球環境大賞2013「幸せの国に学ぶ豊かな未来へのヒント」を放送 2013年6月23日放送



「幸せの国に学ぶ豊かな未来へのヒント」をテーマに、地球環境大賞を受賞した企業や団体の技術や取り組みを多角的に検証するとともに、「世界一幸せ」とされるブータンの人々の暮らしを取材。地球を守る最先端の技術とあわせて、豊かな未来を実現するために必要な心の持ち方やライフスタイルを見つめ直しました。首都なのに信号機を使わない交差点。冷えた飲み物が出てこないレストラン、そしてツルを保護するために電気を諦めた村…敢えて「使わないこと」を選択した「世界一幸せな人々」の暮らしに、日本の未来に繋がる生き方のヒントがありました。

● フジサンケイグループ広告大賞



2013年4月に第42回贈賞式を終えた「フジサンケイグループ広告大賞」は、日本の広告文化の向上と広告界の発展に寄与する事を願い、1971年にフジテレビを中心としてフジサンケイグループ各社と創設されました。フジテレビでは、フジサンケイグループ各社と協力して賞の運営を行っています。

▶ 公式ホームページ <http://www.fuji-sankei-g.co.jp/koukoku-taisho/>

● 日本医師会 赤ひげ大賞

日本医師会



地域で献身的な医療活動に取り組む医師を顕彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」（主催・日本医師会、産経新聞社）は2013年に創設され、2014年3月に第2回表彰式が行われました。フジテレビでは、この顕彰制度の趣旨に賛同し、後援するとともにニュース等で報道し、有意義なこの活動をサポートしています。

● 美術館サポート

フジサンケイグループの公益財団法人 彫刻の森芸術文化財団が運営する「彫刻の森美術館」「美ヶ原高原美術館」、また公益財団法人 日本美術協会が運営する「上野の森美術館」に対し、グループ各社と連動しわが国の芸術文化活動の普及に寄与すべく様々な支援を開館時より行っています。彫刻の森芸術文化財団は美術館運営のほか、文化の国際支援として、国際的な若手音楽家の育成に協力するロン・ティボー国際コンクールを主催する「ジャック・ティボー財団」などの支援も実施しています。

● 音楽関連サポート

開局当時よりゆかりのある、「公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団」、「財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団」、また「公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団」に対し、大口サポーターとして、音楽を通じて豊かな日本社会の実現に寄与すべく支援を続けています。

フジ・メディア・ホールディングス各社 とともに行った取り組み

With Fuji Media Holdings Group

(株) ディノス・セシールのディノス事業による復興支援活動

『東北に春をお届けします。』とコラボレーション

● 石巻市の幼稚園・保育園3ヶ所に花の苗を届けました！

3月6日、宮城県石巻市の幼稚園・保育園3ヶ所に花の苗を届けるとともに、山中章子アナウンサーによる春の花にちなんだお話の朗読や、仙台放送の人気キャラクター・ジュニくんとの「ジュニ体操」を盛り込んだイベントを行いました。



● 被災地に桜の苗290本を植樹

NPO法人ハッピーロードネットと『SAKURA+プロジェクト』が行っている被災地に桜の苗木を植える取り組みに参加。ディノスが中心となって呼びかけを行い、フジ・メディア・ホールディングス及び傘下の13社より110本、ディノス・セシールのカタログ商品購入者の参加により180本の桜の苗木を南相馬市、いわき市、浪江町の国道6号沿いに植樹しました。



● 「BSフジ」プレイマットを寄贈&チャギントン上映会



10月9日、福島県相馬市の原町子育て支援センターに何いBSフジが夏のイベント『お台場合衆国』で使用したプレイマットを寄贈しました。せっかくなら子どもたちとママ・パパに集まってもらって楽しいことをしよう！と、フジテレビCSR推進室のメンバーと生田竜聖アナウンサーでミニイベントを開催。BSフジでも放送している「チャギントン」のアニメ上映と、以前チャギントンお兄さんを担当していた生田アナと一緒にみんなでダンスを踊りました。

● フジ・メディア・ホールディングス合同清掃活動

今年度は3回実施。おそろいのピブスやトンガをそろえた社もあり、清掃活動を通じてグループの一体感も強まっています。

- 2013年7月10日 17社から64人が参加 ゴミ袋（70L）14個分を回収
- 2013年10月10日 17社から63人が参加 ゴミ袋（70L）19個分を回収
- 2013年3月10日 15社から61人が参加 ゴミ袋（70L）19個分を回収



● ニッポン放送「第39回ラジオチャリティミュージックソン」への協力



ニッポン放送が行う「ラジオチャリティミュージックソン」への協力をフジ・メディア・ホールディングス各社の有志で毎年行っています。2013年は12月24日正午～25日正午に、募金の電話受付と屋外ステージでの街頭募金を行いました。ラジオを通じて募金を募るこのキャンペーンは、昭和50年（1975年）から行っており、今回が39回目。寄せられた募金は、目の不自由な方が安心して街を歩くのに役立つ「音の出る信号機」の設置や、本を音声朗読した「声の図書」、「立体コピー」など多数の視覚障がい者用教育機器などに使われます。

パーソナリティ：AKB48 / 最終募金額：67,192,528円

● ディノス・セシール チャリティセール

(株) ディノス・セシールの在庫衣料品・雑貨を、社内のチャリティセールやフジテレビの日のフリーマーケットで販売、全額をFNSチャリティキャンペーンに寄付しました。

コーポレートガバナンス・内部統制等

コーポレート・ガバナンス充実に向けての取り組み状況

フジテレビは、内部統制機能の整備推進を担う部署として、適正業務推進室内に番組・CM審査を中心に担当する審査・放送倫理部、内部統制全般の構築と評価を推進する適正業務推進部、及び内部監査部門を設置し、業務適正化の確保と共に、各部門の課題等の迅速かつ社内横断的な解決に努めています。

リスクの管理

放送事業を行うフジテレビは、放送法をはじめとする法令等に基づき、高い公共性と倫理観を求められており、コンプライアンス及びリスクの管理に関する意識や使命感は高い水準にあるものと考えています。

加えて、下記の「内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況」の項目に詳述していますが、フジテレビは役職員が法令、定款、社内規則及び企業倫理等を遵守し、もって適正な職務執行が行なわれることを基本観とし、併せて、健全かつ誠実に実行されている業務が滞ることなく機能する内部統制システムの構築に向け、社内における検討と意識の共有を図っています。具体的には、「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」を策定し、コンプライアンス及びリスクの管理等に関するプログラムを整備し、適法・適正で効率的な事業運営を管理する体制としています。

内部統制システムに関する考え方およびその整備状況 - 1

● 基本的な考え方

1. フジテレビは、放送法、電波法等及び放送に携わる者としての倫理観に基づき、業務の適正性が確保されるよう業務を遂行しています。そして、高い公共性と倫理観が求められている中、コンプライアンス及びリスクの管理等に関する意識や使命感は、高い水準にあるものと考えています。これは、放送局を規制する法令等が目的とするメディアの公益性等の確保に対し、適正な業務の確保や企業価値を毀損させない業務遂行が相反するものではないためです。
2. 1.を前提にして、内部統制システムについては、それが最適に機能するような整備・運用に努め、もって企業価値の向上につながる事が重要であると考えます。例えば、役職員の業務等を監視するシステムを構築する場合であっても、過度な監視により現状健全に行なわれている業務の停滞を招き、企業価値が毀損することがないよう留意することも重要です。現状の業価値の基礎である「現場における自由闊達な発想やチームワーク」といった当社の企業文化に、過度の悪影響を及ぼす可能性のあるシステムの導入には、慎重に対応する必要があると考えます。
なお、役職員が日常の業務に対して、高い倫理観を持って臨む意識を醸成することが、必要不可欠であることはいうまでもありません。
3. 以上の考え方に基づき、適正な内部統制システムを整備・運用した上で、経営に重大な損失を与えるような事象を、未然に防止する事を目指すことが重要であると考えます。

● 整備状況 (1)

1. 取締役及び使用人の職務の執行が法令等に適合することを確保するための体制及び損失の危険の管理に関する体制の概要
 - a. 取締役及び使用人は、フジテレビの経営理念・経営基本原則に基づいて制定した「フジテレビ行動宣言」を常に意識し、その遵守に努めます。特に番組制作や報道取材などにおいては、放送の公共性を重んじ、言論・表現の自由を守るよう努めます。
 - b. フジテレビは、法令・定款遵守の実効性を確保するため、以下のとおり社内体制の整備等を行います。
 - 組織の構築
代表取締役社長は、「コンプライアンス及びリスクの管理等に関する規程」((2)に記載)に基づき、コンプライアンス等責任者となり、関連業務を統括。代表取締役社長は、その補佐役としてコンプライアンス等担当役員を任命するとともに、各局からコンプライアンス等担当者を指名します。また、コンプライアンス等担当役員は、コンプライアンス等責任者が指名した委員によって構成されるコンプライアンス等委員会の長となり、コンプライアンス及びリスクの管理に関する対応策の検討並びに整備等を行います。
 - 体制の整備
コンプライアンス等責任者は、健全に行われている業務に十分配慮しつつ、コンプライアンス及びリスクの管理の強化を図るための体制の整備に加えて、財務報告の信頼性を確保する為の内部統制システムの構築に努めます。
 - 教育・研修
適正業務推進室は、コンプライアンス及びリスクの管理について、定期的な社内研修会のほかイントラネット及び社内報などへの関連資料の掲載等を適宜実施し、取締役及び使用人の理解を促進する活動を行います。
また、コンプライアンス等担当者は、各部署内においてその意識を高める活動を展開することとします。

内部統制システムに関する考え方およびその整備状況 - 2

● 整備状況 (2)

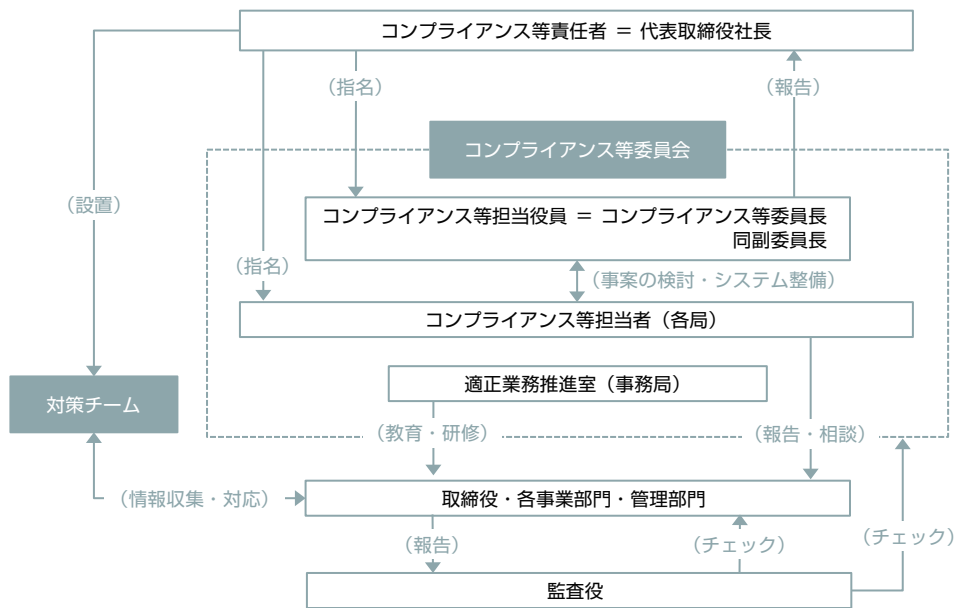
2. 「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」の概要

当該規程では、コンプライアンス及びリスクの管理に関する基本理念やフジテレビの社員としての適切な行動を示すほか、各部署内において経営に重大な影響を及ぼす事案が生じた場合にコンプライアンス等責任者が対策チームを設置し、当該対策チームが情報収集及び対応策の検討等必要な一切の業務を行なう旨を定めています。

3. 取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制の概要

- a. 取締役及び使用人は、監査役に対し、以下に定める事項について発見次第、直ちに報告を行います。
 - 業務又は財務に重大な影響を及ぼすおそれのある事実を知った場合。
 - 取締役及び使用人の職務遂行に関して不正行為、法令・定款・社内規則に違反する事実を知った場合または社会通念に反する行為が発生する可能性が生じた若しくは発生した場合で、当該事実または行為が重大である場合。
 - その他緊急・非常事態を知った場合。
- b. 取締役及び使用人は、監査役に対し各部門における主要事項及び内部統制に関する部門の活動概要などについて定期的または必要に応じて報告を行います。
- c. 取締役及び使用人は、監査役からその職務の執行に関する報告を求められた場合、速やかに当該事項を報告します。

フジテレビの内部統制の仕組みは以下の通りです。



● 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方およびその整備状況

フジテレビは、適正な社会秩序維持に脅威を与える反社会的勢力との関係を遮断することは社会的責務であり、また、会社資産の流出等の防止はもとより企業防衛に資するものと考えます。前述のとおり、法令・定款遵守の実効性を確保するため、「コンプライアンス及びリスクの管理に関する規程」を設け、反社会的勢力との間における利益供与等の行為を一切行ってはならないことを規定する等反社会的勢力からの不当な要求等に対し、毅然とした姿勢で臨んでいます。

また、制作セクション等においては、研修等を通じて反社会的勢力への対応を周知徹底しています。加えて、反社会的勢力に関する情報については、警察、弁護士等外部の専門機関と連携し、収集に努めています。今後も更なる規程や社内体制の整備に努める等、反社会的勢力との関係を遮断するための対応の強化を実行していきます。

公益性に基づくコーポレート・ガバナンス等の推進

フジテレビは、国民共有の財産である電波を預かり放送事業を営んでいます。

そのため、社会的インフラとしての役割、すなわち、基幹メディアとして緊急災害放送などライフラインの機能を維持し責任あるコンテンツを送り届けるという使命を果たすことも、フジテレビのコーポレート・ガバナンスを検討するうえで一つの基盤となります。

従って、これからもフジテレビは、放送の公共性を重んじ、もって社会的責任を全うする基本理念をいささかも揺るがすことなく、良質な経営を追求すべくコーポレート・ガバナンス等の在り方について不断の検討を続けていきます。

情報セキュリティ

フジテレビは、「フジテレビ情報セキュリティ基本方針」を定め、メディアを通じて人々に感動を与え、情報文化向上に寄与するという企業理念のもと、絶えず発信する豊かなコンテンツ（情報）資産を各種の脅威から守り、かつ、業務や番組制作において取得したすべての情報は重要かつ貴重な資産であるという認識にて、全社的に情報セキュリティの考え方（「情報セキュリティガイドライン」）を周知徹底しています。また、特に業務過程で取得した多くの個人情報については、「個人情報に関する基本方針（プライバシーステートメント）」および「フジテレビホームページに寄せられた個人情報の取扱と保護について」に基づき保護対策を講じるなど、情報セキュリティの適正な運用と管理を進めています。

● フジテレビ情報セキュリティ基本方針

株式会社フジテレビジョンは、絶えず発信する豊かなコンテンツ情報の保全および当社が業務過程で取得した個人情報の保護を重要な経営課題と考えております。

当社はメディアを通じて人々に感動を与え、情報文化の向上に寄与するという企業理念の下、明るく、元気で、半歩先を行くフジテレビのDNAの結晶であるコンテンツ資産を各種の脅威から守り、多くの人々の個人情報にも十分な配慮をするため、ここに情報セキュリティについての基本方針を制定します。

● 情報のセキュリティ確保宣言

当社は、コンテンツ情報および個人情報（以下、「情報資産」という）の紛失、破壊、不当な改ざん、漏洩並びに不正アクセスの防止など、情報セキュリティの適正な運用と管理を目指します。そのため、情報セキュリティに関する具体的なルールを定め、役員、社員、その他の関係者に遵守させます。

● 法令等の遵守

当社は、表記の目的の下にブランドイメージをさらに高め、法令および当社が定めた情報管理諸規程を遵守することを宣言し、役員、社員、その他の関係者に周知するため必要な措置を講じます。

● 情報セキュリティ基本方針等の継続的改善

当社は、情報セキュリティ基本方針および情報管理規程をはじめとする情報関連の諸規程を社会情勢の変化に応じ、継続的に見直すとともに必要に応じて改善していきます。

人権や児童・青少年への配慮

テレビは誰にもアクセスできる最も身近なメディアであり、今や日常生活に密着して、国民にとって欠くことのできないメディアになっています。したがって、放送する内容が国民に与える影響は大きいものとなっています。

フジテレビは、こうしたテレビの社会的な影響力の大きさを十分に認識し、放送内容が国民の基本的人権を擁護するものとなるよう心がけております。

特に、人権や児童・青少年への配慮については、細心の注意を払っています。

人材育成と職場環境

フジテレビでは、社員ひとりひとりが充実した毎日を送れるよう、さまざまな取り組みを行っています。企業にとって大切な財産である社員がいきいきと働ける職場づくりを目指しています。

人材育成について

● 幅広い人材の採用

国籍、学歴、性別を問わず、あらゆる人材を幅広く採用し、その能力を発揮できる環境づくりに努めています。新卒採用では、海外の大学を卒業する留学生や、日本の大学を卒業する外国人留学生の採用も行っています。障がい者雇用についても積極的に行っており、番組制作現場で働く社員もいます。また、定年を迎えた社員も、65歳までの継続雇用を行い、それまでの経験を活かした業務や後進育成を担っています。また、仙台市を中心に、年1回～2回程度被災地及び周辺地域の学生に向けた就職会社説明会に参加しています。採用活動とは別に、学生に向けて仕事への理解を深めてもらうため、アナウンサー、バラエティ、ドラマ、報道、美術、CG、技術部門で就業体験を行っています。

● 研修制度

社員ひとりひとりが、自らの成長を実感しながら日常の仕事に取り組めるよう、さまざまな研修制度やセミナーの充実を図っています。また、新入社員教育の一環としてごみ処理施設を見学させ、環境保全に対する意識の涵養を図っています。

- **内定～入社時**
テレビ局員としての心構えを、イベント研修や映像制作研修を通して内定時から養成します。入社後は、フジテレビ社員としての基本知識を習得できるよう新入社員研修を行っています。
- **フューチャーキャンプ**
各年代の社員が参加するグループワーク研修。組織や年齢にとらわれず、社会におけるフジテレビの未来のあるべき姿を社員全員が共有できる取り組みを行っています
- **階層別研修**
上記とは別に、それぞれの階層で求められる知識獲得を目的とした研修を入社年次別に行っています。
- **人事セミナー**
各専門分野の講師を社内外から招き、日常業務に活かせるようなセミナーを開催しています。
- **UCLAメディア研修**
カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)と提携し、国際的な人材育成を目指したメディア研修を行っています。2013年度は「テレビというビジネスを考える」をテーマに掲げ、ニューヨークの大手メディア企業とも交流、テレビ業界の人材育成と国際交流にもつながりました。(2013年10月28日～11月1日実施)

職場環境について

社員が心身の健康を保ち、それぞれの能力を十分に発揮できるよう働きやすい職場環境づくりの実現に向けてさまざまな支援を行っています。

- **育児支援**
最大2時間までの時短を、小学校一年生の5月末までの希望する期間取得できます。また、小学校の始期まで休職を取ることができます。
- **介護支援**
家族に介護が必要になった場合、1年間の介護休業もしくは最大90分までの時短を取得できます。また、ケアワーカーの派遣料を補助するホームヘルプ制度もあります。
- **復職支援**
長期の休職から復職する際に、円滑に復職できるよう、復職支援制度を設けています。
- **健康維持**
健康診断に加え、人間ドック、脳ドック、婦人科検診を行い、従業員の疾病予防に全力を注いでいます。また、常駐の産業医が社員と定期的に面談を行い、きめ細やかに心身の健康管理をサポートしています。湾岸スタジオにある「フジテレビ診療所」では、従業員に加え一般の外来診療も行い、地域医療の一助となっています。
- **社員の個人的な社会貢献の支援**
社員が個人的社会貢献を行う際、活動内容を会社に申請することで、活動のための休暇を取りやすくなるよう支援しています。
- **その他**
社員が、心身をリフレッシュして英気を養い、元気に働けるように、年に5日以上連続して休みを取得することを促進しています。

フジテレビCSRホームページ
<http://www.fujitv.co.jp/csr/>

